

WinBook ***Slim***

Z1P150MX
Z1P133

ユーザースガイド



SOTEC

重要なお知らせ

このユーザースガイドに含まれる情報は、要約にお知らせすることなしに変更される場合があります。

本製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを使用した結果の影響については、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。

本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

著作権についてのお知らせ

本ユーザースガイドのすべての内容は著作権によって保護されています。本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright © 1993, 1994, 1995, 1996, 1997 株式会社シーエスエー
株式会社情報通商産業みなとみらい（一）

本ユーザースガイドにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいは特許権やその他の権利のもとに創製されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約におとづき利用できる他の製造商や製品の製造物としてのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

Microsoft、MS-DOSは、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下MS-DOSと省略します。
Microsoft、Windows[®]95は、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下Windows[®]95と省略します。

Internet Explorerは米国マイクロソフト社の登録商標です。

SystemSoftは米国システムソフト社の登録商標です。

Maximizer、Any Key Resume、CARDOSOFTは、米国システムソフト社の登録商標です。
PS/2は米国IBM社の登録商標です。

グライトポイント (SlidePoint) は、Circle Corporation社の登録商標です。

MMxおよびMMxロゴはインテル社の商標または登録商標です。

Pentiumは米国インテル社の登録商標です。

Transixは、フーマテクノロジーの商標です。

WinBook Slim ユーザーズガイド

はじめに

このたびは、ソーテックWinBook Slimをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ソーテックWinBook Slimは、最高解の800×600ドットワイド画面に加え、CD-ROMドライブやステレオスピーカー、マイクなどのマルチメディア機能を標準で搭載するなど、Windowsを活用するための数多くの機能をコンパクトな4サイズで実現しています。

このユーザーズガイドでは、注意していただきたいことや基本的な使いかた、および、より有効に活用する方法を6つのセクションに分けて説明しています。

ソーテックWinBook Slimを正しくお使いいただくためにも、必ずこのユーザーズガイドをお読みください。

Windows®95の起動後にデスクトップ画面に表示される「始めにお読みください」は、必ずお読みください。

この中には、Winbook Slimを使用される上で重要な情報が記述されています。

特に、Windows®98を再インストールされる場合は「始めにお読みください」に書かれているとおりドライバ等のインストールを行わないとWinbook Slimの性能を充分発揮できないばかりか、一部の機能が動作しなくなる場合があります。

株式会社ソーテック

WinBook

本製品を正しくお使いいただくために

ご使用前に取扱い上の注意をよくお読みになり正しくお使いください。

⚠ 警告



水場使用禁止

- 洗面所、風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



- 絶対に分解したり修理改造をしないでください。火災や感電の原因となります。また、無償補修の対象外となります。修理は販売店にご相談ください。



- 付属のACアダプタ以外は使用しないでください。火災・感電の原因となります。



電源プラグを
抜く

- ACアダプタから何かこげ臭いような匂いがしたり、音が出たり熱いときは直ちに電源プラグを抜いてください。そのままに使用になると火災・感電の原因となります。販売店にご相談ください。



- 電源が100-240Vの範囲内であることを確認して使用してください。100-240Vを越える電圧を使用すると火災・感電の原因となります。

- 付属のバッテリー以外は使用しないでください。また、付属のバッテリーを本製品以外に使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- バッテリーは火気や直射日光の当たる場所で使用、保管、充電しないでください。危険防止の保護回路が働けることがあります。
- バッテリーに強い衝撃を与えないでください。

お願い



- 液晶ディスプレイは、もの尖ったものでたたいたり、引っかいたりしないでください。



- ハードディスクやフロッピーディスクが動作中のときは、移動させないでください。

- 本製品にインストールされているWindows[®]95、および各種ユーティリティソフトが収録されているフロッピーディスクは大切に保存してください。
- ハードディスクに保存したデータなどは、定期的にバックアップをお取ってください。

⚠ 注意



電源プラグを
抜く

- ACアダプタの電源プラグを抜くときはコードを持たず、必ずプラグ部分をしっかりと握ってください。



電源プラグを
抜く

- 使用所以外には電源プラグをコンセントから抜いてください。漏電・火災の原因となります。



- 落としたり強い衝撃を与えないでください。また、強い磁界の存在しないでください。故障による火災・感電の原因となります。



- 直射日光のあたるところ、可燃性ガスのある環境、ほこりの多いところ、使用温度範囲(10~30℃/使用湿度範囲(20~80%))を超える範囲で長時間保存しないでください。



- バッテリーは火中に投げたり、加熱・分解・ショートなどの過剰な電圧・電流などで損傷させること(は)しないでください。火災の原因となります。



- ディスプレイを開けるときは、キーボードとの間にボールペンなどの異物がないかどうか確認してください。異物を挟んだまま、ディスプレイを開きますと、ディスプレイを破損する恐れがあります。

- バッテリーから液が漏れたり異臭がするとき、すぐに2度より遠ざけてください。漏れた液に当たって、発火・破裂のおそれがあります。もし、電池から漏れた液が顔に入ったときは、きれいな水で洗った後、直ちに医師の指導を受けてください。
- 本体を持ち運ぶときは、ディスプレイを閉じてください。ディスプレイを持ってぶら下げた状態で持ち運ぶと、ディスプレイに強い力が加わり、破損する恐れがあります。
- グライドポイントの表面をペン先などの鋭いもので触れたり、表面シートをはがしたりしないでください。
- グライドポイントは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手首を痛める原因となります。

保証について

保証期間中に万一故障した場合、保証書の記載内容にもとづき無料修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間後の修理については、お買い求めいただいた販売店までご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客さまのご要望により有償で修理いたします。保証書は、お買い求めいただいた販売店で、所定事項を記入のうえお受け取りになり、大切に保管してください。



注意

本製品を、分解、改造された場合、保証期間であっても無償修理の対象にはなりません。また、修理対応もできません。

お手入れについて



- 液晶ディスプレイの汚れは、清潔でやわらかい乾いた布を使い、から拭きしてください。
- フロッピーディスクドライブは、乾式のクリーニングディスクを使って、定期的にクリーニングしてください。

カラー液晶ディスプレイおよびバックライトは消耗品です。

カラー液晶ディスプレイは使用時、画面の色などが正確に再現することがありますが故障ではありません。

カラー液晶ディスプレイは使用時間によって消耗する可能性があります。また故障する前に液晶ディスプレイのバックライトが「点灯しない」、「点滅する」、「暗い」などの状態になります。この場合は、一度本体の電源をOFFにし、しばらく放置してから30分間の電源に接続した後、お買い求めください。

Contents

重要なお知らせ

著作権についてのお知らせ

はじめに	1
本製品を正しくお使いいただくために	2
Contents	5
ユーザズガイドの読みかた	10
困ったときはサポートへ	12

第1章 スタートアップガイド

1 WinBook Slimの機能を知る	14
2 梱包の内容を確認する	16
ハードウェアと付属品	16
インストールされているソフトウェア	17
3 各部の名前と機能を確認する	18
カバーの開け閉め	18
前面/上面	18
右側面（後面）	20
底面	22
ステータスLEDについて	23
4 ACアダプタの接続とバッテリーの充電	24
最初に使うときは	24
ACアダプタの接続と充電	24
バッテリー残量が少なくなったときは	25
バッテリーパックの交換	26
5 電源のON/OFFとリセット	28
電源のON/OFF	28
コンピュータをリセットする	29
6 グライドポイントの使いかた	30
国産のポイントを動かすには	30
クリック、ダブルクリック、ドラッグするには	30

7 Windows®95をセットアップする	31
8 バックアップディスクを作成する	34
9 Windows®95の使いかた	36
Windows®95の画面について	36
クリックとダブルクリック	37
ドラッグ&ドロップ	37
アプリケーションを起動する	38
アプリケーションを終了する	38
アプリケーションを閉じる	38
ウィンドウを操作する	39
10 画面の解像度などを変える	40
出荷状態の設定	40
設定を変更する	40
11 サスペンド機能とスピーカ音量を設定する	43
サスペンド機能の設定	43
スピーカの音量の調整	44
12 フロッピーディスクドライブを取り付けるには	45
取り付けるには	45
取り外すには	45
13 フロッピーディスクドライブの使いかた	46
フロッピーディスクを使うときの注意	46
データを書き込み停止にする	47
ドライブへの出し入れ	47

第2章 キーボード操作になれよう

1 キーボード各部の名前と機能	50
文字入力キー	50
制御キー	50
システムファンクションキー	51
アプリケーションキー	51
Windowsキー	51
各キーの機能	52
テンキーを使って数値を入力する	54
2 文字を入力する	55
入力方法について	55
文字入力キーの使いかた	55

第3章 マルチメディアを楽しもう

1 サウンド機能を使う	60
内蔵スピーカについて	60
内蔵マイクについて	60
マイクや外部オーディオ機器を接続する	61
MS-DOSアプリケーション使用時	62
2 CD-ROMを使う	63
CD-ROMを使うときの注意	63
CD-ROMの出し入れ	64
CD-ROMを楽しむ	64
3 マルチメディア機能を使う	65
CDプレーヤー	65
メディアプレーヤー	66
サウンドレコーダー	66
ボリュームコントロール	67

第4章 システムを拡張する

1 PCカードを使う	70
PCMCIA規格について	70
カードサイズについて	70
カードの抜き差し	71
モジュールを使う	73
LANカードを使う	73
2 メモリを増設する	74
拡張RAMモジュールの設置	74
3 ハードディスクドライブを交換する	76
ハードディスクを取り外すには	76
ハードディスクを取り付けるには	77
4 ドライブを交換する	78
フロッピーディスクドライブと交換する	78
CD-ROMドライブと交換する	78
5 外部キーボードやマウスを接続する	79
6 外部モニタを接続する	80
ディスプレイの機能を設定するには	81
7 IrDAポートを使用する	82

第5章 トラブルが起きたら・・・

1	トラブルの原因と対処方法	84
---	--------------------	----

Appendix

1	フロッピーディスクドライブからのブート	90
2	Windows®95でのパワーマネジメント機能の使用	91
3	赤外線通信について	92
	Windows®95のケーブル接続	92
	Transit 2	92
4	索引	94
5	製品の仕様	98
	本機システム仕様	98

このユーザースガイドは、ユーザーのレベルや使いかたに応じて大きく5つのセクションに分けられています。

付属品の確認から同時に電源を入れてWindows®95を立ち上げるまでを順番に説明しています。お買い上げ後初めて使うときには必ずお読みください。

スタートアップガイド

1

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボードに接続していない場合は必ずお読みください。

キーボード操作になれよう

2

Windows®95のマルチメディア機能、および本製品のサウンド機能とCD-ROMドライブの使いかたについて説明しています。

マルチメディアを楽しもう

3

PCカードの使いかた、メモリやハードディスクを交換する方法、および各周辺機器の接続方法について説明しています。

システムを拡張する

4

トラブルが発生したときの原因と対処方法について説明しています。うまく動作しないときなどに参照してください。

トラブルが起きたら...

5

本ユーザースガイドの構成、本製品の仕様について説明しています。必要に応じてお読みください。

Appendix

コンピュータに慣れるのが本読者であるという方や、コンピュータにあまり詳しくないという方は、「第1章 スタートアップガイド」と「第2章 キーボード操作になれよう」だけでも読みただけでも、ひと通り使えてなるようになります。

マルチメディア機能やCD-ROMドライブを活用したり、PCカードを使って機能を拡張すると、本製品をより有効に活用しようとする場合は、「第3章 マルチメディアを楽しもう」「第4章 システムを拡張する」をお読みください。

使っているときに動作がおかしくなったり、同様のトラブルが発生した場合は、「第5章 トラブルが起きたら...」をお読みください。トラブルを解決する手助けとなることでしょう。

また、パフォーマンスレポート機能の実装を受けたり、システムを自分好みの設定にできるようにする場合は、別冊をお読みください。

困ったときはサポートへ・・・

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときは、83ページの「第8章 トラブルが起きたら」のページや、「はじめにも読んでください」をお読みください。状況に応じた解決方法が書かれています。

ユーザズサイトを覗いてもトラブルが解決しないときや、わからないことが出てきたときは、弊社のテクニカルサポートセンタにお問い合わせください。

●電話をかけるときは・・・

電話をかける前には、次のことを確認し、本製品を手元に用意しておいてください。

- ・お客様の所在地、連絡先
- ・本製品を購入された販売店、代理店の名称
- ・本製品のシリアル番号または製品番号（本製品裏面のラベルに印刷してあります）
- ・トラブルが起きたときの状況と状態。または、問題の点のできるだけ詳しい内容

●テクニカルサポートFAXシートを使うときは・・・

本製品に付属している「テクニカルサポートFAXシート記入用紙」にトラブルの内容や問題を記入し、FAXで送信します。

ソーテック テクニカルサポートセンタ

電話番号 045-224-1125

FAX番号 045-224-1126

E-mail support @ sotec.co.jp

毎週月曜日～金曜日 午前10時～午後12時・午後1時～午後5時
(祝祭日および弊社指定休業日を除きます。)

書類の郵送、または新品を送付するときは以下のところへお願いいたします。
なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包/梱造品、パッキングにてご返送ください。

〒220-81 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
株式会社ソーテック テクニカルサポートセンタ

△注意

ハードディスクを修理する場合はドライブのみの修理もしくは交換となります。
記憶されているアプリケーション、データ等の保証、復旧はいたしかねますので
重要なものについては必ずバックアップを取っておいてください。
ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて受け付けております。

第1章

スタートアップガイド

付属品の確認と、実際に電源を入れてWindows®95を立ち上げるまでを、順番に沿って説明しています。本製品をお買い上げ後、初めて使われるときには必ずお読みください。

- | | |
|--------------------------|----|
| 1 WinBack Slimの機能を知る | 14 |
| 2 箱中の内容を確認する | 16 |
| 3 各部の名称と機能を理解する | 18 |
| 4 ACアダプタの接続とバッテリーの充電 | 24 |
| 5 電源のON/OFFとリセット | 28 |
| 6 グライドポイントの使いかた | 30 |
| 7 Windows®95をセットアップする | 31 |
| 8 バックアップディスクを作成する | 34 |
| 9 Windows®95の使いかた | 36 |
| 10 画面の解像度などを変える | 40 |
| 11 サスペンド機能とスピーカ音量を設定する | 43 |
| 12 フロッピーディスクドライブを取り付けるには | 45 |
| 13 フロッピーディスクドライブの使いかた | 46 |

7

WinBook Slimの機能を知る

WinBook Slimの主な機能や特長を紹介します。

1

スタートアップガイド

- MMXペンティアム150MHz (Z1P150MX)
ペンティアム133MHz (Z1P133)

- A4サイズ、厚さ33.4mm、2.5Kg

- 16MB標準メモリー
最大4GBまで増設可能

- 800×600ドットのSVGA対応

- 12.1インチD6TNカラー液晶ディスプレイ採用
- 最大16万5536色表示が可能

- マルチメディア対応のサウンドプラス
PRO互換サウンド機能搭載

- 1.44GB (Z1P150MX)
1.0GB (Z1P133)
高規格大容量HDDを標準装備

- 内蔵マイク

- ステレオスピーカ

- 10倍速CD-ROMドライブユニット
標準装備

- PCMCIAカードスロット
TYPE II × 2スロット、または
TYPE III × 1スロットを標準装備

- グライドポイント標準装備

- 3モード3.5インチFDDを標準装備



●Windows®95をプレインストール



●インターネットエクスプローラを
プレインストール

●TranXit2をプレインストール



2

梱包の内容を確認する

ソーテックWinBook Slimには、本体の他に次のような付属品とソフトウェアが含まれています。パッケージを開けたら、不足がないかどうか確認してください。

ハードウェアと付属品

●コンピュータ本体



●ハードディスクドライブ (本体に装着されています。)



●ACアダプタ



●ACコード

●フロッピーディスクドライブ



●Windows®95 パッケージ



Windows95マニュアル
Registration Card
ディスクラベル
CD-ROM

●汎用ディスクラベル



各種ドライバの
バックアップ用に
お使いください。

●バッテリーパック



●WinBook Slim ユーザーズ ガイド(本書です)



●ユーザ登録カード



●保証書



●テックサポート FAXシート



●インストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、本体に装着されているハードディスクにあらかじめインストールされています。

●Microsoft Windows®95

米国マイクロソフト社が開発したコンピュータのオペレーティングシステムです。同時に複数のアプリケーションを実行できる「フリエンティバマルチタスク環境」を実現するとともに、グラフィックを使ったインターフェース(GUI)を持ち、マウスやポイントを使って簡単にコンピュータを操作することができます。

また、ハードウェアの追加などが簡単にできる「プラグ アンド プレイ」や、アプリケーション間の連携プレイを実現する「OLE2」、他のコンピュータとデータや機器を共有したり電子メールを送受信できる「ネットワーク」機能、ビデオやサウンドを再生できる「マルチメディア」機能など、数々の先進機能が搭載されています。

Windows®95の詳しい使いかたについては、付属のWindows®95のマニュアルをお読みください。

●インターネットエクスプローラ

米国マイクロソフト社が開発したWindows®95専用のWWW(World Wide Web)ブラウザです。インターネットセットアップウィザードを使用することで、インターネットとの接続に関する設定もほとんど自動的に行います。また、Windows®95と同じインタフェースを持っているので、ドラッグアンドドロップやショートカットといった簡単な操作で、インターネットの世界を楽しむことができます。

インターネットエクスプローラの詳しい使いかたについては、インターネットエクスプローラのヘルプをお読みください。

●TranXit 2

TranXit(トランジット)と呼ばれる、iDAポートやシリアルケーブルを使って、コンピュータ間でファイルのコピーや移動、燃焼などのファイル転送を行うWindows用ソフトウェアです。また、2台のコンピュータ間でファイルの同期をとったり、クリップボード内のデータを転送することもできます。iDAポートを持つプリンタと通信することで、ケーブルで接続することなく印刷を指示することもできます。

TranXitの詳しい使いかたについては、TranXitのReadmeファイルをお読みください。

3

各部の名前と機能を確認する

本体各部の名前とその機能について説明します。なお、別のページで詳しく説明されている部分もありますので、各ページも併せてお読みください。

カバーの開け閉め



カバーを開けるときは、手前のスイッチをおへスライドして、見やすい角度まで開けます。



カバーを閉じるときは、ノブがロックされるようにします。

前面/上面



①LCD画面

文字やグラフィックが表示されます。[ブザーナレッジメント]の設定によりコンピュータが動作していない場合は、自動的に表示が消えるようにすることもできます。

②キーボード

キーを押して文字を入力したり、コマンド命令を送ります。

③グライドポイント

指を軽くのけて動かすと、カーソルが移動します。(→ 30ページ)

④充電LED

充電力が表示されます。(→ 25ページ)

⑤ステータスLED

動作状態を表示します。(→ 23ページ)

⑥内蔵マイク

音声をコンピュータに取り込むことができます。(→ 60ページ)

⑦電源LED

電源の状況を表示します。(→ 25ページ)

⑧電源スイッチ

電源をON/OFFすることができます。また、システムコンフィギュレーションメニューの設定により、サスペンド状態にさせたり、スライント状態から動作状態に移すことができます。
(→ 前頁 205の図)

⑨PCカードスロット

PCMCIA規格準拠のPCカードを挿入します。(→ 70ページ)

⑩MIC IN

マイクのケーブルを接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(→ 61ページ)

⑪LINE IN

CDプレーヤなどの外部オーディオ機器を接続することにより、外部の音声をコンピュータに取り込むことができます。(→ 61ページ)

⑫ヘッドフォン

ヘッドフォンを接続します。音声はステレオで出力されます。

⚠注意 突然大きな音が鳴り電力障害を起こすおそれがありますので、音量には注意してください。(→ 61ページ)

⑬ボリュームノブ

音量を調整します。(→ 44ページ)

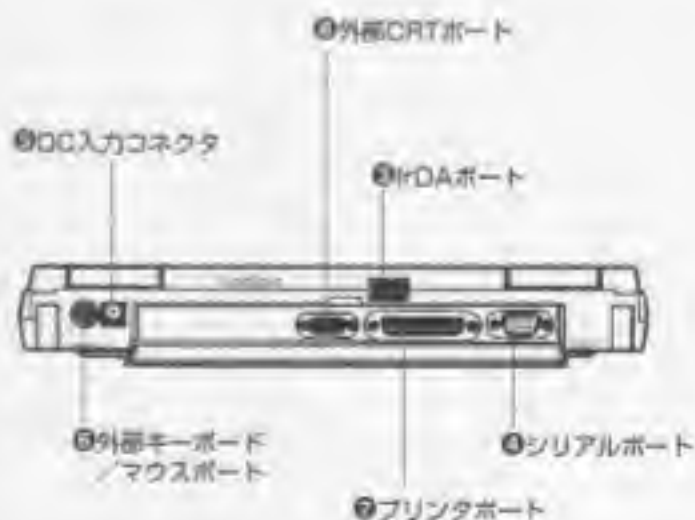
⑭リセットボタン

コンピュータを再起動できます。(→ 29ページ)

⚠注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

● 右側面・後面

ノブを右へスライドしながら、カバーを開けてください。



①ステレオスピーカ

ステレオスピーカです。(→ 60ページ)

②CD-ROMドライブ

CD-ROMを挿入します。(→ 63ページ)

③IrDAポート

赤外線を使った高速データ通信用のポートです。(→ 32ページ)

通常「COM2」に設定されますが、システムコンフィギュレーションで「COM1」→「COM4」に変更することができます。(→ 附録 B BIOSの設定)

④シリアルポート

モデムなどのシリアルポートを使う周辺機器を接続します。通常「COM1」に設定されますが、システムコンフィギュレーションで「COM2」→「COM4」に変更することができます。(→ 附録 B BIOSの設定)

⑤AC入力コネクタ

付属のACアダプタを接続します。(→ 24ページ)

⑥外部キーボード/マウスポート

PS/2キーボードやマウスを接続することができます。(→ 79ページ)

⑦プリンタポート

プリンタを接続します。LPT1のポートになっており、通常「LPT1」に設定されますが、システムコンフィギュレーションで他の設定に変更できます。(→ 附録 B BIOSの設定)

また、専用ケーブルで付属の平行ポートスキャナやフロッピーディスクドライブを接続することができます。(→ 46ページ)

⑧外部CRTポート

外部CRTディスプレイを接続します。(→ 80ページ)

● 底面



① 拡張RAMエリア

拡張RAMモジュールを装着します。(→74ページ)

② バッテリーパック固定用フック

バッテリーパックを取り出すときにこのフックをスライドさせます。(→28ページ)



注意 ACアダプタを接続していない状態で、コンピュータが動作しているときにバッテリーパックを取り出さないでください。

③ スタンド

使いやすくするよう、引き起こして斜めに角度を調整できます。

④ ハードディスクロック

ハードディスクを取り出すときに引き出します。



注意 ハードディスクを取り出すときは、必ず電源をOFFにしてください。

⑤ ドライブリリースカバー

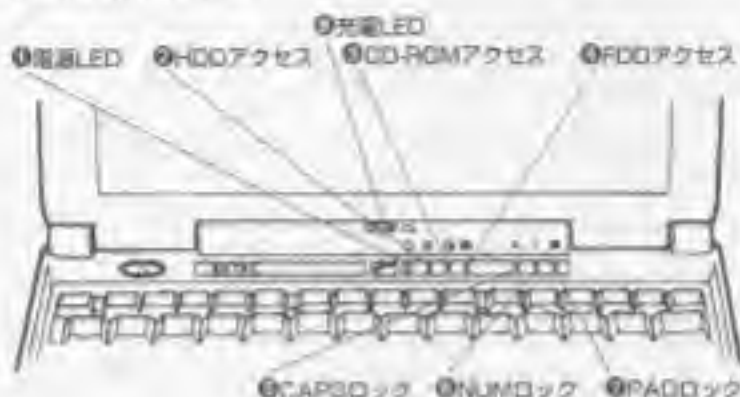
CD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブを交換するときに、このカバーを開けてから、中のレバーにより取り出します。(→75ページ)



注意 ドライブを交換するときは、必ず電源をOFFにしてください。

ステータスLEDについて

コンピュータの動作状態をステータスLEDで表わします。それぞれのマークと点灯状態の意味は次の通りです。



- | | | |
|---|-------------|--|
| ① | ①電源LED | 電源の点灯状態を示します。(→25ページ) |
| | ②HDDアクセス | ハードディスクドライブへのアクセス時に点灯します。 |
| | ③CD-ROMアクセス | CD-ROMドライブへのアクセス時に点灯します。 |
| | ④FDDアクセス | フロッピーディスクドライブへのアクセス時に点灯します。 |
| A | ⑤CAPSロック | Shiftキーがロック状態のときに点灯します。この状態でShiftキーを押さずにアルファベットの太文字を入力することができます。 |
| 1 | ⑥NUMロック | NumLockキーがロック状態のときに点灯します。この状態でNumLockキー(デフォルトのF6キー)を使用することで変えます。 |
| | ⑦PADロック | Fnキーがロック状態のときに点灯します。さらにNumLockキーをロック状態にすることでNumLockキーが使用できず、Fnキーが使用できます。 |
| | ⑦充電LED | 充電の状態を表示します。(→25ページ) |

△注意 HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたりリセットさせないでください。データが破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

4

ACアダプタの接続とバッテリーの充電

本製品の電源は、付属のACアダプタを使ってACコンセントからとる方法と、バッテリーパックを使う方法の2通りあります。

1

最初に使うときは・・・

バッテリーがフルに充電されていない状態(十分に充電されていない状態)で出荷されています。最初にお使いになるときは、保護シートを取り外してから、充電を行なってください。

ACアダプタの接続と充電

ACアダプタは、ACコンセントから電源をとるときだけでなく、バッテリーパックを充電するときにも使います。また、充電中も本製品を動作させることができますので、右図い上げ後最初に使うときは、まずACアダプタを接続して、充電しながらお使いください。

注意 付属のACアダプタ以外は、絶対に使用しないでください。

- 1 ACアダプタのプラグを、本体の後ろのDC入力コネクタに差し込みます。プラグのもう一方をACコンセントに接続すると、電源が点灯し、充電が始まります。



- 2 充電LEDが緑色になったら充電は終わります。/バッテリーの満ちでお使いのときはACアダプタを取り外してください。AC電源でお使いのときはこのままにしておきます。(充電が完了すると、緑の点灯になります。)

Note 使用できるAC電源は何ボルト?

本製品に付属のACアダプタは、100Vから240Vまで対応しており自動的に切り替わりますので、海外でもお使いになります。(海外では、プラグの形状が異なることがありますのでご注意ください。)

Note 充電時間について

よく充電されていない状態からフル充電されるまでには3〜4時間がかかります。

充電LEDの意味

緑色の点灯	バッテリーが十分に充電されている。
黄色の点灯	バッテリーが充電中の状態です。
消灯	ACアダプタが接続されていない。

電源LEDの意味

黄色の点灯	CPUファンが停止中。
緑色の点灯	CPUが動作中。

● バッテリー残量が少なくなったときは・・・

バッテリー残量が少なくなってくると、次の順で警告を発します。

- バッテリー残量10%未満 ▶ 1回だけピープ音が鳴り、電源LEDが2秒おきに点滅します。
- バッテリー残量5%未満 ▶ 1秒おきにピープ音が鳴り、電源LEDが1秒おきに点滅します。
- バッテリー残量がなくなった ▶ 自動的にサスペンド状態に入る。

警告が寄せられたら、

- ACアダプタを接続して充電する。
- 充電満足のバッテリーパックと交換する。

△注意 バッテリーパックは、バッテリー動作中に交換することはできません。必ず26ページの説明にしたがって交換してください。

△注意 バッテリーの残量が少ない状態でアプリケーションの操作を続けると、データやプログラムファイルが壊れるなどの事故が発生するおそれがあります。バッテリーがすべてなくなると、アプリケーションの使用中でも電源が切れます。ピープ音が鳴ったらすぐにデータをセーブしてください。

Note バッテリーを節約するには・・・

- ・使い終わったらすぐに電源をOFFにする。
- ・パワーマネージメント機能を使う。
- ・サスペンド機能を有効にする。
- ・なるべく、ハードディスクにアクセスをおこなわないようにする。

Note バックアップ電池について

本製品は、バッテリーパックの他にメモリアップ電池が内蔵されています。コンピュータ内部の時刻やシステムコンフィギュレーションなどの情報は、バックアップ電池によって保持されていますので、バッテリーパックを取り外してもこれらの情報が失われることはありません。

● バッテリーパックの交換

△注意 付属のバッテリーパック以外のバッテリーは絶対に使用しないでください。また、バッテリーパックの分解や修理、火中への投入、加熱、端子の短絡なども絶対に行わないでください。燃焼したり火災を起こすおそれがあります。

2ページの「本製品を正しくお使いいただくために」も必ずお読みください。

バッテリーパックの交換は、電源がOFFのとき、もしくはサスペンド時がACアダプタで電源を供給しているときしかできません。交換の前には、電源LEDが消灯している事を確かめてください。(サスペンドの状態でも交換することができます。)

1 バッテリーパック固定用ブロッカーを液晶パネルの右側からスライドさせながらバッテリーパックを取り外します。



2 バッテリーパック固定用ブロッカーを液晶パネルの右側からスライドさせた状態で、交換用のバッテリーパックをスロットに挿入します。



Word サスペンド

サスペンド状態とはアプリケーションの動作中に電源をOFFにすると現在の作業をメモリに保存し、電源をOFFにしたときは、OFFにする前と後とで動作を中断できる状態です。開いているアプリケーションも再開できることから作業を中断でき、再び作業を始めるときにもアプリケーションの初期

状態まで戻す必要はありません。ただし、サスペンド状態であっても、手動の操作が施されると復帰するので、バッテリーを充電しているときに長時間この状態のままにしておくことはお薦めできません。この機能はWindows®8.1のスタートボタンをクリックしたときに表示されるメニューから「サスペンド」を選ぶことで実行されます。(P42ページ)

- 3 バッテリーパック固定用フックをロックされ、バッテリーパックが確実に装着されているのを確認します。

5

電源のON/OFFとリセット

電源のON/OFFとリセットの方法について説明します。電源を入れる前には、ACアダプタが接続されているか、もしくは、バッテリーがフル充電されているかどうかを確認してください。なお、出荷時には、電源ONの状態で電源スイッチを押すと電源がOFFになるように設定されています。ガスベンドさせる場合はセットアップメニューで設定を変更してください。

電源のON/OFF

- 1 本体の前面にあるスイッチをおスライドしてカバーを開いてください。



- 2 本体の側にある電源スイッチを押します。
電源をOFFにするときは、もう一度電源スイッチを押します。
または、Windows[®]7の「スタート」メニューから「シャットダウン」を選択したときに表示される「Windowsの終了」ダイアログボックスから「コンピュータの電源を切る状態にする」を選択して「はい」を選択しても、自動的に電源がOFFになります。



お持ちのPCが起動して電源がオフになったとき、Windows[®]7の「スタート」メニューから「シャットダウン」を選択したときに表示される「Windowsの終了」ダイアログボックスから「コンピュータの電源を切る状態にする」を選択して「はい」を選択しても、自動的に電源がOFFになります。

- △注意** HDD/FDDアクセスランプが点灯しているときに電源をOFFにしたリセットさせないでください。データを破壊するおそれがあります。また、電源をOFFにした後、再び電源をONにする場合は15秒以上待ってください。

Note 電源LEDの意味

緑色の点灯：CPUファンが回転している
緑色の点灯：CPUファンが回転している

Note 充電LEDの意味

緑色の点灯：バッテリーがフル充電されている
黄色の点灯：バッテリー充電中
赤い点灯：ACアダプタが接続されているが充電中

● コンピュータをリセットする

新しいドライバを組み込んだり、別の機器を接続したときなどは、それらを認識させるためにコンピュータを再起動させる必要があります。

通常、Windows®95の場合は、ドライバを組み込む時や周辺機器を追加してハードウェアウィザードを実行するときなどに再起動を促すメッセージが表示され、[OK]もしくは[はい]をクリックすることで再起動させることができます。

また、[スタート]メニューからWindows®95を終了させるときに「再起動」を選んで再起動させることもできます。

再起動させるには、このような方法以外にも、ソフトウェアリセットとハードウェアリセットの2通りの方法があり、それぞれの状況に応じてどちらかを実行します。

△注意 むやみにリセットをかけないでください。一部のアプリケーションでは、正しい方法で終了させなければデータが消失したり、作業ファイルが壊れたままになる場合があります。

ソフトウェアリセット

新しいドライバを組み込んだり、MS-DOSモードでの使用時にAUTOEXEC.BATやCONFIG.SYSを書き換えるなど、おちにソフトウェア上でのシステムの変更を反映させるときなどは、次の操作を行なってリセットさせます。

[Ctrl]と[Alt]と[Delete]キーを同時に押す

ハードウェアリセット

新たに周辺機器を接続するなど、おちにハードウェア上でのシステムの変更を反映させるときなどは、次の操作を行なってリセットさせます。

本体をLCDをとじずに、図の位置にある、リセットスイッチをボールペンの先などで押す。



リセットするとWindows®95が再起動します。

△注意 リセットすると、セーブされていないすべてのデータは消えてしまいます。

△注意 サスペンドの実行中にハードウェアリセットを行うと、保存されていないデータは消えてしまいます。

6

グライドポイントの使いかた

本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グライドポイント」と左右2つのボタンが装備されています。Windows[®]3.5では、これらを使ってポインタ(カーソル)を動かしたりクリックすることができます。

△注意

- ・ペン先などの先の尖ったもので触れたり表面シートをはがしたりしないでください。故障の原因となります。
- ・2本以上の指や手指をした指、また、濡れた指などで操作しないでください。正常に動作しません。また、指先の皮膚やよれによっても正常に動作しない場合がありますので、そのときは、充分よれを取りのぞいてからご使用ください。
- ・ポインタは軽く触れるだけで動作します。必要以上に力を入れたり無理な姿勢で操作すると、指や手を傷める原因となります。

●画面のポインタを動かすには・・・

グライドポイントは、本製品のキーボードの手前中央にあります。グライドポイントのパッドに指を触れて動く動かすと、画面上のポインタがその動きに応じて動きまわります。



●クリック、ダブルクリック、ドラッグするには・・・

クリックとは、ボタンを1回押すことです。パッド上を1回たたくことでもクリックできます。ダブルクリックとは、ボタンを2回押すことです。パッド上を2回たたくことでもダブルクリックできます。

ドラッグはアイコンなどの上にポインタを移動し、左ボタンを1回押しながら「パッドを1回たたく」指をパッドから離さず動かしています。



7

Windows®95をセットアップする

お買い上げ後初めて電源をONにしたときには、まだ、Windows®95が使える状態にはなっていません。お使いになるには、Windows®95をセットアップする必要があります。

電源をONにし、メモリーチェックが終わると「Windows®95セットアップウィザード」の画面が表示されます。次の手順で、セットアップを行なってください。



注意 再インストールに必要な各種ドライバ、Toshibaのディスクおよび95セットアップ起動ディスクを必ず作成してください。
各種ドライバのバックアップ用のラベルは、添付ラベルをご使用ください。
(各ドライバの名称は記載されていません) また、Windows®95の起動ディスクのバックアップにもご利用ください。

- 1 ユーザー情報を登録します。名前を入力し、パスワードを登録し、設定を入力します。入力が終わったら[次へ]をクリックします。
- 2 使用可能なハードウェアが表示されます。読み替わったに[照会する]のところをポインタをのけてクリックし、[次へ]をクリックします。(変更しないうえ進むとセットアップできません。)
- 3 「Windows®95パッケージ」に添付されている「Certificates of authenticity」のバーコードのよび読取されている「Product ID」を入力します。入力が終わったら[次へ]をクリックします。
- 4 「ウィザードの画面」に画面が表示されます。2次設定をクリックしてください。
- 5 日付と時刻のプロパティ画面が表示されます。
[タイムゾーン]で、本製品を使用する場所を設定します。日本国内でお使いの場合は変更する必要はありません。



- 6 日付と時刻のテストをクリックします。

- △注意** カレンダーと時計が繋がっていると、データファイルなどのタイムスタンプが間違っていて記録され、データ更新時や他のパソコンで作成されたファイルを読み込んだときなどに他のファイルと整合性がとれなくなります。最悪の場合、消す必要のないファイルが消されることもありますので、必ず正しい日付と時刻を設定しておいてください。

7 日付と時刻を合わせます。



- 8 設定した日付と時刻に間違いがないかどうか確認し、[変更]をクリックします。日付や時刻をいじらない場合は[変更]は表示されません。(同じようにクリックしてください。)

- 9 [Microsoft Windows] の設定が行われ、[プリンタのウェザード]画面が表示されます。本画面に接続できるプリンタが列挙される場合は[ウェザード]をクリックし、ウェザードの指示にしたがってプリンタをインストールしてください。プリンタが無い場合は[キャンセル]をクリックします。



Note 急に画面が真っ暗になったら・・・

一定の時間キーを押さなければ続けると、急に画面表示が止まる場合があります。

これは、パワーセービング機能を設定しているときにパワーセービング状態に入ったことにより画面が暗くなるのが原因ではありません。何らかのキーを押すと元の画面に戻ります。

[パワーセービング機能の設定]については、別冊『パワーセービング機能の設定』を参照してください。

- 10 「Windows95へようこそ」の画面が表示されます。Windows95の機能や使い方などを知ることができます。この画面を閉じるときは「閉じる」をクリックします。
- 11 デスクトップ画面上にある「お使いになる前に実行してください」アイコンをダブルクリックします。
- 12 メッセージが表示されたら「OK」をクリックします。
（画面(画面の背景)が変わり、「お使いになる前に実行してください」アイコンが消えます。）

- 1 Microsoft Create System Diskの画面が表示されたら、すべての項目のバックアップを行ないます。「すべて」をクリックします。



- 2 作成するディスクセットと読み取る順番が図示されます。まず、CD-ROMセットアップ起動ディスクを作成しますので、【Windows95 CD版セットアップ起動ディスク】が選択されているのを確認し、「はい」をクリックします。
- 3 1枚目のCD-ROMに【Windows95 CD版セットアップ起動ディスク】と書き入れたら、次の2枚目、3枚目のCD-ROMにスタートライブをコピーしセットします。
終了したら、「はい」をクリックします。
- 4 フォーマットされていないディスクや、データが入っているディスクがセットされているときは、フォーマットしてもよいかどうかを確認するメッセージが表示されます。フォーマットしてもよいときは、はいをクリックします。
コピーが完了したら、「はい」をクリックしてプロパティディスクを取り出してください。
- 5 手順2-4と同様に、3枚目のCD-ROMをとり替えてはちのもののCD-ROMバックアップを行なうてください。
作成したバックアップ用3枚目のCD-ROMには、右側のリスト通りにディスク名を記入して、裏面にラベルを貼着してください。

Windows95 CD版セットアップ起動ディスク
Windows95 CD版セットアップ起動ディスク (2nd)
WinSock 5.0vドライバディスク
ALPS Gig Pointドライバディスク
Red Magic VGAドライバディスク
Ivan052
Windows95起動ディスク



Note Windows95 CD版セットアップ起動ディスクと、Windows95起動ディスクの違い

Windows95のインストール・メディアはセットアップディスクと、Windows95のインストール・ディスクとを区別する必要があります。このディスクは、通常「Windows95 CD版セットアップ起動ディスク」として書き込まれるものと区別する必要があります。

注意 Windows95のインストール・ディスク

Windows95のインストール・ディスクは、Windows95のインストール・ディスクと区別する必要があります。このディスクは、通常「Windows95 CD版セットアップ起動ディスク」として書き込まれるものと区別する必要があります。

- 6 30秒間をクリックすると、手続2の画面に移りますので、(キャンセル)をクリックします。
- 7 システムディスクの作成を促すメッセージの表示をどうするかを設定します。
システムディスクを作成しなかったときは、システムディスクの作成を促すメッセージが
Windows®95の起動時に表示されます。
▼ボタンをクリックして、メッセージの表示回数を変更してください。



- 8 [完了]をクリックします。

Note あとでディスクを作成するときは

〔スタート〕ボタンをクリックし、メニューの〔プログラム〕→〔アクセサリ〕→〔システムツール〕→〔System System Disk〕を選択し、Microsoft Create System Diskの画面が表示されます。

Note Windows®95が起動しなくなったときは

前述のようにシステムディスクを作成し、既存Windows®95の構成を戻したときは、正常に起動するようになることがあります。このとき「Starting Windows95」と表示されている画面にF5キーを押すと、同じ画面が数回繰り返され再起動されます。通常の設定で正常に起動しない原因が特定できれば、正しいWindows®95のインストールを再試行ください。

Windows®95は、アイコンやボタンをクリックするだけの簡単操作でアプリケーションを動かすことができるシステムです。アプリケーションはウィンドウと呼ばれる枠の中で動作し、複数のウィンドウを開いて、ウィンドウからウィンドウへの文字や画面のコピーも簡単にできます。また、2つ以上のアプリケーションを同時に実行できます。

ここでは、アプリケーションの起動方法などWindows®95の基本的な操作方法について説明します。詳しい使い方については、付属のWindows®95のマニュアルや、お使いのアプリケーションのマニュアルをお読みください。

Windows®95の画面について

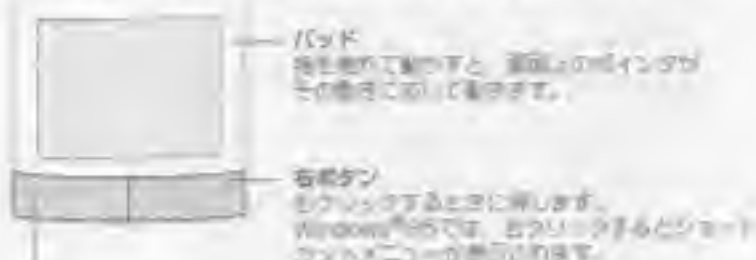


電源をONにするとWindows®95の起動画面が表示され、しばらくするとアイコンやタスクバーと呼ばれるものが表示されます。この画面を「デスクトップ」といいます。Windows®95では、このデスクトップ上でアプリケーションを実行し、いろいろな作業を行ないます。

● クリックとダブルクリック

Windows®95の世界では、文字を入力する以外のほとんどすべての操作を、ポインタ(マウスカーソルともいいます)を使って行ない、アイコンやメニューの上にポインタをのせてクリックすることで処理を実行できます。

クリックとは、マウスのボタンを押すことで、本製品には、マウスと同じ役割を果たす「グライドポイント」と言われるボタンが備わっています。



左ボタン
をクリックするときに押します。クリックは標準的のびます。

● クリック

パッドを「短くかくこと」(またはボタンを「短く押すこと」)、メニューやアイコン、ボタンなどを選択したり、ポップアップなどで表示される応答を決めるのに使います。

● ダブルクリック

パッドを連続した2回こと(またはボタンを連続して2回押すこと)、アイコンを選んでアプリケーションを起動するとされ、さらに応答を決定するときに使います。



● ドラッグ & ドロップ

ドラッグとは、アイコンなどをクリックして選んだ、または状態を別の場所に動かすことです。ドロップとは、ドラッグして動かしたアイコンなどを、その場所に置くことです。ファイルやアプリケーションのアイコンなどを別のフォルダへ移動したり、ごみ箱へ入れて削除するときなどは、まず、アイコンの上にポインタのせ、左ボタンを押したままパッドの上で指を動かします。目的の場所まできたら、そこで左ボタンを離します。



● アプリケーションを起動する

アプリケーションを起動するには、スタートボタンをクリックすると現われるスタートメニューを使います。

マイコンピュータやエクスプローラから、アプリケーションのアイコンをダブルクリックして起動させる方法もあります。



1 スタートボタンをクリック

3 起動するアプリケーションのアイコンをクリック

● アプリケーションを終了する



閉じるボタンをクリック

● アプリケーションを切替える

実行されているアプリケーションはすべて、タスクバーにボタン表示されています。ウィンドウの後ろに隠れているアプリケーションを一画面に表示させたり、最小化されているアプリケーションをウィンドウ表示して使えるようにするにはタスクバーを使います。



アクティブにするアプリケーションのボタンをクリック

● ウィンドウを操作する

ウィンドウを動かす

ウィンドウのタイトルバーにポインタをのせて、左ボタンを押したままマウス上で動かしたい方向にマウスを動かします。



ウィンドウの大きさを変える



「最大化」ボタンをクリック
最大化の状態で表示します。元の大きさに
戻すときは「復元」ボタンをクリックします。

「最小化」ボタンをクリック
ウィンドウを隠します。終了には無視し、アプリケーションは
実行されており、タスクバーのボタンをクリックすることで再
び表示させることができます。

ウィンドウの大きさを自由に变える

ウィンドウの棒にポインタをのせて、左ボタンを押
したままマウス上で棒を動かしてドラッグすると、
ウィンドウの大きさを自由に变えることができ
ます。

(最大化の状態では、変えることはできません。)



本製品には、高解像度DSTNカラー液晶ディスプレイが搭載されています。Windows®95では最大800×600ドット、65,536色で表示することができます。他の解像度・色数・フォントサイズで表示させるときは、「画面のプロパティ」で設定を変更します。

出荷状態の設定

製品の出荷状態は、次のようになっています。

表示ディスプレイ	本体LCD表示のみ
デスクトップ(画面の解像度)	800×600ピクセル
カラーパレット (色数)	High Color(16ビット)・・・65,536色
フォントサイズ	小さいフォント：・・・16ドット

設定を変更する

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの[設定] - [コントロールパネル]を選びます。
- 2 コントロールパネルの中の[画面]アイコンをダブルクリックし、[ディスプレイの詳細]を選びます。



Note 表示させるディスプレイを変えるには

一時的に高解像度表示の場合は、[Fn]+[F8]を押すとLCD→CRT→同時表示の順で切り替わります。常時一定の解像度を選択する場合は、システムコンフィグレーションで行います。

なお、同時表示の場合はLCD用表示回路の動作がCRTの要求速度に自動的に調整されるため、若干の表示品質が低下する場合があります。

3 各設定を変更します。

デスクトップ領域(解像度)は、本体LCD表示の場合「800×600ピクセル」「640×480ピクセル」に加え、「ディスプレイの解像度」の設定を変更することにより、「1024×768ピクセル」を選択できるようになります。(→別冊 BIOSの設定)



- ① カラーパレット 表示する色数を選びます。
 256色
 High Color(16ビット) --- 65,536色
 True Color(24ビット) --- 16,777,216色
- ② デスクトップ領域 デスクトップの大きさ(解像度)を選びます。
 640×480ピクセル
 800×600ピクセル
 1024×768ピクセル
- ③ フォントサイズ 表示するフォントサイズを選びます。
 小さいフォント
 大きいフォント(640×480ピクセルの場合は選択できません)

4 [OK]をクリックします。

Note 「画面のプロパティ」での「デスクトップ領域」とカラーパレット」の対応は下記の通りです。

デスクトップ領域	カラーパレット
640×480ピクセル	256色~True Color(24ビット) (16,777,216色)
800×600ピクセル	256色~High Color(16ビット) (65,536色)
1024×768ピクセル	256色

カラーパレット・フォントサイズ・ディスプレイの種類を変更した場合

Windows®95を再起動する必要があります。[はい]をクリックします。



デスクトップ領域(解像度)のみ変更した場合

サイズの変更を確認するダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックすると自動的に変更されます。



変更したサイズを保持するには[はい]をクリックします。



Note 外部ディスプレイに表示させるときは

Windows®95をインストール終了後は、電源をOFFにしてから外部ディスプレイを接続します。その後、システム構成メニューでディスプレイ表示の設定を行ってからWindows®95を起動します。(→86頁 8.0.6.2.6.2)

11

サスペンド機能とスピーカ音量を設定する

実際にアプリケーションを使う前に、コンピュータ本体の動作環境を設定しておきます。

● サスペンド機能の設定

本製品には、Windows®95のスタートメニューから「サスペンド」を実行することで現在の状態をメモリに保存して電源をOFFにし、電源をONにしたときには、OFFにする直前と同じ状態で動作させることができる「サスペンド機能」が搭載されています。

この機能を有効にしておくと、たとえばワープロで文書を作成している途中で作業を中断したいと思った場合、ワープロをいったん終了させることなく、電源をOFFにすることができます。再び電源をONにするだけで電源OFFの直前の状態から作業を始めることができます。ワープロを起動させてファイルを読み込む作業を省くことができ、非常に便利です。

サスペンドさせる場合は、次の手順で設定を変更してください。

- 1 Windows®95を起動すると「コントロールパネル」フォルダ内に「パワーマネージメント」のアイコンが格納します。
- 2 「パワーマネージメント」のアイコンをダブルクリックし、「パワーマネージメント(p)」 dialogの下にある「保存」「詳細」「オフ」>OKから「詳細」を選択します。
- 3 「スタート」メニューの「サスペンド」コマンドの表示「(x)」の中で「常に表示(y)」のラジオボタンをONにします。
- 4 (OK) ボタンをクリックします。

サスペンド機能とレジューム

サスペンド状態から再度電源をONにし、作業を再開したとき、電源が復帰することを「レジューム」といいます。

スタートメニューからサスペンドさせる

上記の設定を行うと、Windows®95の「スタート」ボタンをクリックすると表示されるメニューに「サスペンド」が追加されます。これを選択し、電源スイッチをOFFにすることで、すぐにサスペンド・レジュームさせることができます。

● スピーカの音量の調節

本体には、ステレオスピーカが内蔵されています。
スピーカの音量を調節するには、次のようにします。

ボリュームノブで音量を調節するとき

本体左側面のボリュームノブで調節します。
PCカードモデムの発音時は、このボリュームで調節します。



Windows®95でスピーカの音量のみ調節するとき

タスクバーの [音] を左クリックする



つまみをドラッグして調節する「ミキサー」が表示されると音量が調節できます

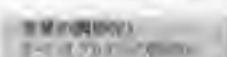


Windows®95で左右のバランスや音源ごとに調節するとき

タスクバーの [音] を左クリックする



[音量の調節] を左クリックする



ボリュームコントロール(ミキサー)の音量つまみをドラッグして調節する



音量の調節はFn+F5(音量を下げる)またはFn+F6(音量を上げる)で一時的に調節が可能です。(ハード的にもWindows95にも反映されません)

使用するアプリケーションおよびPCカード、モデムカードによっては別の方法で設定できるようになっているものがあります。その場合、使用するアプリケーションのマニュアルの音量設定の項目をお読みの上調節してください。

12

フロッピーディスクドライブを取り付けるには

※製品には、フロッピーディスクドライブが付属しています。

ここでは、オプションの専用ケーブルを使ってプリンタポートに接続する方法を説明しています。CD-ROMドライブと交換して使う場合は、次ページ「ドライブを交換する」をご覧ください。

● 取り付けるには

電源をOFFにします。

オプションの専用ケーブルを使って、フロッピーディスクドライブを外付けにします。

- △注意** フロッピーディスクドライブを専用ケーブルとオプションを使ってプリンタポートに接続した場合は、プリンタポートを使用する他の周辺機器(プリンタなど)を同時に使用することはできません。



- △注意** 本体のFDDアクセスLEDが点灯しているときにディスクを取り出さないでください。データが破損するおそれがあります。

● 取り外すには

- △注意** 取り外すの前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で取り外すことはできません。この場合、/パワーマネジメントで電源スイッチの機能をON/OFFにしてください。(→ 同項目025の解説)

- △注意** フロッピーディスクドライブを外付けで使用する場合、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、衝撃を加えないでください。故障の原因となります。また、ACアダプタなど磁界を発生する物のそばに置いて使用しないでください。誤り書きエラーを起こすおそれがあります。

13

フロッピーディスクドライブの使いかた

本製品には、3.5インチフロッピーディスクドライブが付属しています。ここでは、フロッピーディスクの取り扱うときの注意と、ドライブにセットする方法について説明します。

フロッピーディスクを使うときの注意

3.5インチフロッピーディスクは、入力したデータなどを保存するのに使う大切なものです。取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。

また、フロッピーディスクを使わない場合は、コンピュータの電源をオフにする前に必ずドライブから取り出して、適切な場所に保管してください。

注意



テレビやモニターのような、電気を発生する物のそばに置かないでください。



特に直射日光のあたる車の中や、商品の場所には置かないでください。また、部屋の熱いところに置かないでください。



内部の記憶メディアに傷を付けるおそれがあるため、シャッターを開けないでください。



ラベルは、正しい位置（一般へこんでいます。）にお貼りください。また、別のラベルを貼るときは重ねて貼らず、前のラベルをはがしてください。

【Note】読み書きできるフォーマットは？

出荷時のままの状態で、2HD（高密度磁気ヘッドドライブ）の720KB、2HD（高密度磁気ヘッドドライブ）の1.44MB（1.2MB）の各フォーマットのフロッピーディスクを読み書きできます。

データを書き込み禁止にする

フロッピーディスクには、間違えて保存しているデータを消したり、上書きできないように、書き込みを禁止(ライトプロテクト)とすることができます。ライトプロテクトを行なうにはフロッピーディスクの裏面(逆側の円盤が見えるほう)の一方のカドにあるライトプロテクトノッチを動かします。



書き込み可能状態



書き込み禁止状態

- 書き込み禁止ノッチが「上側」になっていると、フロッピーディスクをフォーマットしたり、ファイルの書き込みや消去などができません。
- 書き込み禁止ノッチが「下側」になっていると(図解の図が解いている状態)、フロッピーディスクのデータを消したり、上書きしたり、追加することはできません。

ドライブへの出し入れ

フロッピーディスクをドライブにセットする場合は、ラベル面を上向きに、シャッターのあまるほうを先にして、ドライブの中に入れます。

フロッピーディスクがはしくけつとされると、FDDイジェクトボタンが飛び出します。



FDDイジェクトボタン

フロッピーディスクを取り出すときは、FDDイジェクトボタンを押してください。フロッピーディスクが少し飛び出し、取り出せるようになります。

Note 1.2MBでのフォーマットは?

(1) 2枚目のフロッピーディスクのフォーマットは行いません。
(2) 2MBのフロッピーディスクを認識可能にする、3モードドライブ(出荷時インストール済み)ドライバソフトのみをサポートするものです。また、(1) 2MBのディスクから認識することはありません。

3モードドライバはWindows 95上でのみサポートしてあり、MS-DOS 5.0ではサポートしていません。

MEMO

1

スティーブ・ジョブズ



第2章

キーボード操作に なれよう

キーボード上のキーの位置と機能、および文字の入力方法について説明しています。キーボード操作になれていない方は必ずお読みください。

- 1 キーボード各部の名前と機能 50
- 2 文字を入力する 55

7

キーボード各部の名前と機能

キーボードは、文字や記号を入力したりコンピュータへ指示を行なう役目をもっています。ここでは、このキーボードの各キーの名前や機能について説明します。



キーは、その機能によって大きく3つに分けることができます。
ここでは、便宜上、キーボードにアミをかけて説明していますが、製品のキーボードには色分けとれていません。

文字入力キー

主に、アルファベットやひらがな、カタカナ、数字、記号などを入力するためのキーです。1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、**[Caps Lock]** **[Shift]** **[Num Lock]** **[Fn]** **[Alt]** **[Ctrl]** の各キーと組み合わせて目的の文字が入力できるようになっています。
使いかたについては、55ページ「文字を入力する」で詳しく説明しています。

制御キー(薄いアミの部分)

文字入力キーと組み合わせて受動キーや、入力する位置を決めたり動かしたりするためのキー、および、コンピュータに対してコマンド(命令)を送るためのキーなどです。
これらのキーだけを使って直接文字を入力することはできません。



ロック状態について

キーには、1回押すことには動作が決定され、**[Caps Lock]** 状態になるキーと、連続で押したときだけ動作するキーの2通りあります。

ロックされるキーのうちで最も目立つのが、**[Caps Lock]** 状態になるとステータスLEDが点灯します。



● システムファンクションキー(薄いアミの部分)

制御キーの一つである(Fn)キー。ファンクションキーの組み合わせにより、画面の輝度を変えたり、スピーカの音量を調節できます。各機能の詳細については参照ページをお読みください。

ディスプレイの輝度/コントラストを変える



 +  輝度を下げる

 +  輝度を上げる

 +  コントラストを下げる

 +  コントラストを上げる

LCD表示かCRT表示かを切り替える

 +  1回押すごとに、LCDのみ→CRTのみ→LCD・CRT両方の順に切り替わります。ディスプレイについては、80ページをお読みください。

スピーカの音量を調節する

 +  音量を下げる

 +  音量を上げる

● アプリケーションキー

グライドポイントの右ボタンに対応する機能があります。使用するアプリケーションによって動作が異なりますので、お使いのアプリケーションソフトのマニュアルを参照してください。

● Windowsキー

同時に押すとWindows®95「スタート」メニューを表示します。次のキーと合わせて押すと、Windows®95の代表的な機能がすぐに使えます。

→(F1) Windows 95のヘルプを表示
→(F2) タスクバーに表示されている
ボタンの切り替え
→(E) エクスプローラの起動
→(C) ファイル検索機能
→(C)+(D) コンピュータの検索結果表示

→(W) ウィンドウの最大化
→(R) 「ファイル名を指定して実行」
ダイアログボックスを表示
→(M) 「システムのプロパティ」ダイアログ
ボックスを表示

Note Windows®95でサポートされないキーについて

文字入力キーのうち、**ろ**、**ろ**、**ろ**、**ろ**、**ろ**、**ろ**の6つの記号はキーボードから入力できません。これらの文字については、日本語入力システム(IME)の文字パレットなどの機能を使い、文字を入力してください。なお、**ろ**の文字は画面+**ろ**で入力できます。

● 各キーの機能



中止や中断させるコマンド(命令)を送ります。

①ESC(エスケープ)キー

設定をやり直したり、実行を中止するときなどに押します。

②Pause Break(ポーズ・ブレイク)キー

実行されているものの中断したり、ブレーク信号を送るときなどに押します。

設定されている機能呼び出すときに使います。

③ファンクションキー

③から⑫までの12個のキーにそれぞれ別の機能やコマンド(命令)が割り付けられています。内容はアプリケーションにより異なります。

コマンド(命令)や設定されたものを決定するときに使います。

④Enter(エンター)キー

通常、あるコマンド(命令)の実行を決定したり、設定されたものを確定させるというような場合に押します。また、文字を入力しているときは、このキーで改行することができます。

画面のハードコピーをとったり、Windows®95の画面を取り込むのに使います。

⑤Print Sc(プリントスクリーン)キー

Windows®95を使っている場合は、表示されている画面を取り込んでクリップボードに転送できます。

文字を編集するときに使います。

⑥Insert(インサート)キー [ロックされます]

文字入力モードを切り替えます。1回押すごとに、カーソル位置にある文字の間に挿入する「インサートモード」と、カーソル位置の文字の上書きする「タイプオーバーモード」が切り替わります。

⑦Delete(デリート)キー

カーソル位置から右側の文字を削除します。カーソル位置は変わりません。

⑧Back Space(バックスペース)キー

カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動いていきます。

⑩Tab(タブ)キー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、タブが挿入されカーソルが右に移動します。
Shift + Tab キーを押すと、一つ前のタブ位置まで戻りカーソルが左に移動します。また、表計算やデータベースなどのアプリケーションでは、次の項目への移動などに使われることもあります。

文字入力キーと組み合わせて、文字を入力するときに使います。

⑪CapLK(キャップスロック)・英数キー【ロックされます】

アルファベットを入力するときの文字種を切り替えます。「 **Caps** 」キーと同時に「 **押す** 」ことに、「 **大文字モード** 」と「 **小文字モード** 」が切り替わります。また、ひらがな/カタカナモードからアルファベットや数字を入力する英数モードに切り替えるときにも使います。

⑫半角/全角キー【ロックされます】

文字を入力しているときの文字種を切り替えます。「 **押す** 」ことに、「 **半角モード** 」と「 **全角モード** 」が切り替わります。また、「 **半** 」キーを押しながらこのキーを押すと「 **日本語入力モード** 」になります。

⑬Shift(シフト)キー

他のキーと同時に押すことで別の機能を実行したり、実行方法を一時的に変えたりすることができます。例えば、「 **大文字モード** 」で文字を入力しているときに、アルファベットキーと同時にこのキーを押すと、小文字で入力することができます。

空白を入れたり、漢字に変換するときなどに使います。

⑭無変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を漢字などに変換したいときに押しながらキーを入力します。

⑮変換キー

日本語入力システムを使っているときに、入力した文字を実字などに変換するときに押します。

⑯カタカナ/ひらがなキー【ロックされます】

「 **カタカナモード** 」と「 **ひらがなモード** 」を切り替えます。「 **カタカナモード** 」のときはこのキーのみ、「 **ひらがなモード** 」のときは **押す** キーと同時に押すと切り替わります。また、「 **On/Off** 」キーと同時に押すとカタカナ/ひらがなモードの **On/Off** を切り替えることができます。

⑰スペースキー

文字を入力しているときにこのキーを押すと、スペース(空白)を入れることができます。

カーソルを動かしたりページをめくるのに使います。

⑱カーソルキー

通常、キーに表記されている3方向の方向に、カーソルを移動するときに使います。また、「 **Fn** 」キーと同時に使うと、ページ送りキー(PgUp/PgDn)、Home(ホーム)キー、End(エンド)キーとして機能します。

他のキーと組み合わせて機能を実行するときに使います。組み合わせるキーと機能は使っているアプリケーションにより異なります。

⑲Fn(エフエヌ)キー

キーボード上に青い文字で表記されている機能を使うときに、同時に押します。

⑳Ctrl(コントロール)キー

文字入力キーや、他の機能キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

㉑Alt(オルト)キー

オルグネートキーともいふ。文字入力キーや、他の機能キーと組み合わせて使うことにより、特定の動作をさせることができます。

FN(エフエヌ)キーと組み合わせて使うことにより、キーボードの機能を変えることができます。

④NumLk(ナンバーロック)キー【ロックされます】

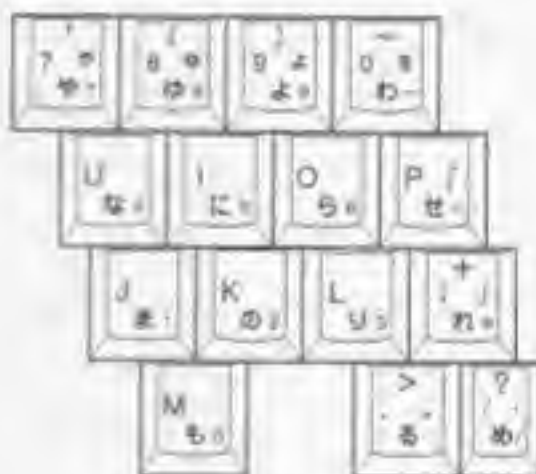
[Fn]キーと併用することで、キーボードの右半分を数字キーとして使えるようになります。

⑤PadLk(パッドロック)キー【ロックされます】

[Pad Lk]キーをロック状態にし、さらに[NumLk]キーをロック状態にすることで、キーボードの右半分の部分も数字キーとして使えます。

●テンキーを使って数字を入力する

通常、数字は英数モードのときにファンクションキーの下に並んでいるキーで入力することができますが、[Fn]キーと同時に[Pad Lk]キーを押し、さらに[NumLk]キー状態にすることで、図の部分(ニューズリックキーパッド)でも数字を入力できるようになります。文字よりも数字の入力のほうが多いという場合などは、電卓のテンキーのように使うことができますので便利です。



Note 電源ONのままカバーを開けると

サスペンドが有効になっているときに、電源をONのまま、
 カバーを開けると、サスペンド状態に入ります。
 (→ 別冊 BIOS の設定)

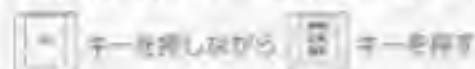
2

文字を入力する

キーボードから文字を入力する方法について説明します。ここでは、本製品にインストールされている日本語入力システム MS-IME95 を例に説明しています。別の日本語入力システムをお使いのときは、お手持ちのマニュアルをお読みください。

入力方法について

Windows®95 起動直後は何も表示されていませんが、デスクトップ上をクリックすると日本語入力システム(IME)のツールバーが現れます。「A」と表示されている状態(漢字入力モード)では、半角のアルファベット/カタカナ/数字と、キーボードに表記されている記号だけしか入力することができません。左側の「A」と表示されているボタンをクリックして入力モードを選ぶか、次のように操作をするとツールバーに各ボタンが表示され、全角の文字や漢字を入力できるようになります。



ローマ字入力とかな入力

ローマ字入力は、ローマ字を入力して目的のかな文字や漢字を入力する方法です。たとえば、「か」を入力するときはKとAを続けて押すことで「か」が入力できます。かな入力は、入力するキーをそのまま押してかな文字や漢字を入力する方法です。たとえば、「か」を入力するときは[か]のキーをそのまま押します。どちらの方式で日本語入力システム(IME)を起動するかは、[MS-IME95のプロパティ]の中で設定します。

また、ローマ字入力のために[ON]と[OFF]を同時に押すと、カナキーがONになり、一時的にかな入力できるようになります。(かな入力の場合は、カナキーのON/OFFを切り替えるだけで、ローマ字入力にはなりません。)

文字の種類と入力モード

入力できる文字の種類には「ひらがな」「カタカナ」「アルファベット」「数字」「記号」などがあります。また、文字には全角文字と、その半分の大きさの半角文字の2種類があります。文字の種類を変える方法には2通りあります。

- 入力前に文字の種類を決めておく → 切替キーを押すか、ツールバーの[入力モード]ボタンでモードを選んでから入力する
- 入力後に文字の種類を決める → 全角ひらがな・カタカナモードで文字を入力してから[F9]～[F10]キーで希望の文字種に交換する

モード	画面表示	切替キー	変換キー
全角ひらがな	全	ひらがな	[F9]
全角カタカナ	カ	[Shift] + [カタカナ]	[F9]
半角カタカナ	半	[Shift] + [カタカナ] (半角/全角)	[F9]
全角英数	英	英数	[F10]
半角英数	半	英数 (半角/全角)	[F10]

※ひらがなと漢字には全角文字しかありません。また、全角カタカナ・半角カタカナ・全角英数にのみ変換する場合は[全角/半角]キーを押します。

漢字の入力

日本語入力システム(IME)が立ち上がっているときに、ひらがなで入力してから[変換]キーを押すと漢字に変換されます。もう一度[変換]キーを押すと別の漢字が表示され、さらに[変換]キーを押すと候補一覧が表示されます。詳しい操作方法については、付属のWindows®8.5マニュアルのMS-IME8.5の項目をお読みください。

文字入力キーの使いかた

1つのキーに2つ以上の文字が割り当てられており、[Ctrl]・[Shift]・[Fn]・[Fn]・[Ctrl]・[Fn]・[Fn]・[Ctrl]の各キーと組み合わせて目的の文字を入力できるようになっています。



MEMO

2

キーボード操作に慣れてよう



第3章

マルチメディアを楽しもう

Windows®95のマルチメディア機能、および本製品に搭載されているサウンド機能、CD-ROMドライブの使いかたなどについて説明しています。

- | | |
|-----------------|----|
| 1. サウンド機能を使う | 60 |
| 2. CD-ROMを使う | 63 |
| 3. マルチメディア機能を使う | 65 |

1

サウンド機能を使う

本製品には、サウンドプラスタ9800互換サウンド機能が搭載されており、音声を入出力するための端子やステレオスピーカ、内蔵マイクなどが用意されています。ここでは、これらの使いかたについて説明します。

内蔵スピーカについて

本体にはステレオスピーカが内蔵されています。このスピーカからは次の5種類の音源からの音声を出力することができます。

スピーカの音量は本体のボリュームノブで調節できます。また、それぞれの音源は、Windows®95のアクセサリ「ボリュームコントロール」を使ってそれぞれ別々に調節したり、ミキシングすることもできます。


PCスピーカ	コンピュータに接続で接続されているスピーカを再生する音源です。
PCカード	PCカードから読み出す音源です。 音源がハードウェアで生成しているPCカードを接続し、音声出力する状態になっている場合のみ、スピーカから音声を出力できます。 (モデムカードは不可)
デジタルサウンド機能	16ビットD/Aコンバータを使用したサウンド生成からの再生音声、および、デジタルセグメントが直接再生される音源です。
マイク入力	内蔵マイクやマイク入力端子に接続されたマイクからの音声です。
LINE IN入力	LINE IN端子に接続された外部オーディオ機器からの音声です。

内蔵マイクについて

本体上面にはマイク(モノラル)が内蔵されています。このマイクを使うと手軽に音声をコンピュータに取り込むことができます。

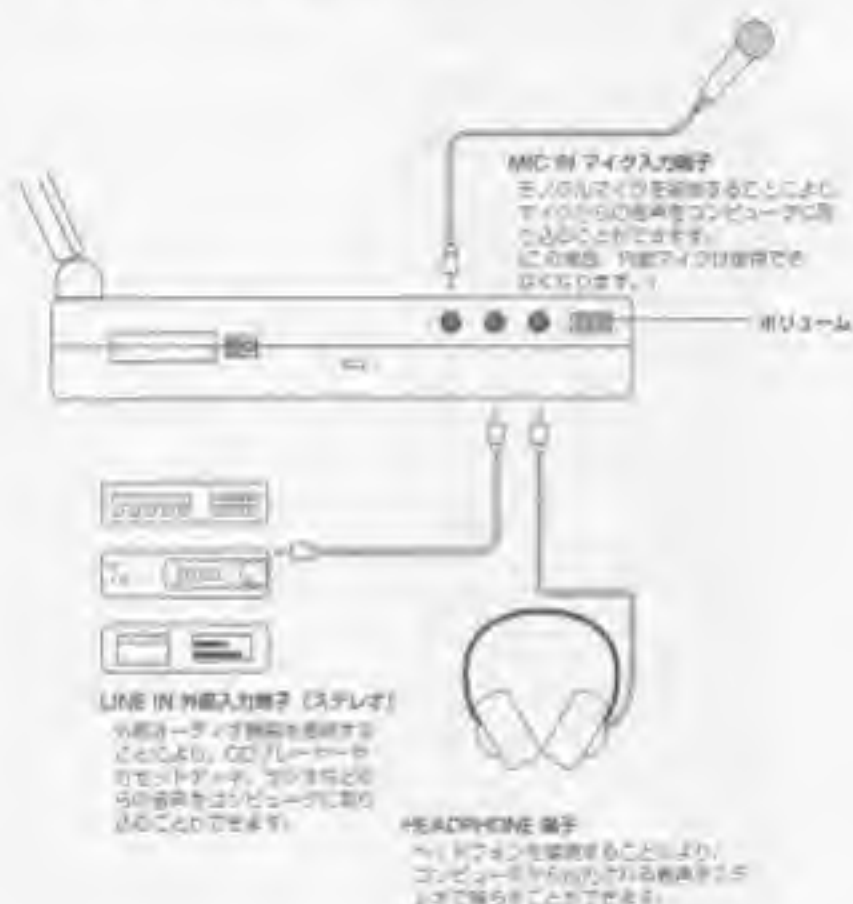


音量を調節するには

スピーカの音量は、本体のボリュームノブで調節できます。
また、タスクバーの  オプションを、表示されるボリュームコントロールでも調節できます。

● マイクや外部オーディオ機器を接続する

本体の左側面には、マイクや外部スピーカー、オーディオ機器などを接続する端子が装備されています。すべてミニジャックになっていますので、ミニプラグが付いているオーディオコードをご用意ください。



● MS-DOSアプリケーション使用時

本製品のサウンド機能は、サウンドブラスタPFD (FMシンセサイザ機能を除く) と互換があります。

ゲームソフトなどのサウンド機能をサポートしているMS-DOSやWindows 3.1用のソフトウェアを使用する場合、サウンドの設定は、「サウンドブラスタ」または「サウンドブラスタPFD」を選択してください。

また、設定時には、I/Oポートアドレス、IRQチャネル、DMAチャネルが次の値に設定されているかどうか確認してください。(この設定を行なえないソフトウェアもあります)

I/Oポートアドレス	220H
IRQチャネル	5
DMAチャネル	1
データビット幅	8bit

Windows®95では上記項目の値を自動的に変更するため、MS-DOS上での設定と異なる場合があります。

Windows®95のMS-DOSプロンプトで、MS-DOSのゲームなどサウンドチップに直接アクセスするアプリケーションを使用する場合は、コントロールパネルのシステムの中のデバイスマネージャで表示される「サウンド、ビデオおよびゲームのコントロール」項目をダブルクリックし、リソースを表示させ、番地を確認してください。

2

CD-ROMを使う

CD-ROMを使う方法について説明します。

● CD-ROMを使うときの注意

CD-ROMドライブやディスクの取り扱いにあたっては次の点を十分注意してください。また、CD-ROMディスクを使わない場合は、必ず、コンピュータの電源をオフにする前にドライブから取り出して、適切な場所に保管するようにしてください。

⚠ 注意



トレイを開けたままにして置かないでください。内部にゴミやホコリが入り込んで故障の原因になります。



強い衝撃を与えたり表面にキズを付けないでください。また、ゴミやホコリの多い場所に置かないでください。防錆剤エアーで汚損となります。



清掃するときは、ソフト布クリーナーやペーパー、シンナーではなく、必ずCD専用のクリーナーを使ってください。また、レンズクリーナーは乾式のものを使用してください。湿式は汚れを残します。湿式は絶対に使わないでください。



ラベルを貼ったり、ペンなどで字を書かないでください。

CD-ROMドライブの中には無電圧のストッパが付いています。ご使用前に必ず外してください。

● CD-ROMの出し入れ

- 1 コンピュータ本体の電源をONにします。
- 2 イジェクトボタンを押します。



- 3 CD-ROMをセットします。文字が書き付いている面を上にして、トレーにCD-ROMを確実に固定してください。
- 4 トレーを押し込みます。
- 5 取り出すときは、CD-ROMボタンをスラップがはじいて開いたのを確認してからイジェクトボタンを押します。

● CD-ROMで楽しむ

現在市販されているCD-ROMには次のような規格があり、本製品ではこれらすべてのCD-ROMを再生することができます。

● CD-DA、CD-Extra

音楽用CDです。音楽用CDをCD-ROMドライブにセットし、Windows®95の「CDプレーヤー」を起動して音楽を聞きます。CD-Extraは音楽用CDなのですが、パソコン用のソフトや、画像、音声ファイルなどのデータも記録されています。

● CD-ROM XA

パソコンのアプリケーションソフトや、画像、音声ファイルなど大容量のデータが記録されています。読み出しだけで記録はできません。現在、最もよく使われているのがCD-ROMです。

● Photo CD

1枚のディスクに100枚ものフルカラー静止画像を記録できる規格です。記録は専門の業者に依頼しなければなりません。また、Photo CDを見るには、Photo CD対応のソフトウェアが必要です。

● Video CD

Video CDを見るには、Video CD対応のソフトウェアが必要です。

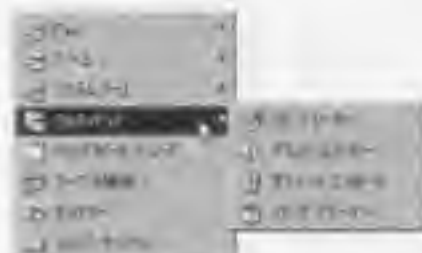
△注意 DVDは再生できません。

3

マルチメディア機能を使う

Windows®95には、マルチメディアを楽しむためのいろいろな機能が用意されています。ここでは、これらについて説明します。

マルチメディアを楽しむツールは、[スタート]ボタンをクリックし、メニューの【プログラム】-【アクセサリ】-【マルチメディア】から起動します。



CDプレーヤー

音楽用のCDを再生するプレーヤーです。CD-ROMドライブが接続されている状態で、ディスクをCD-ROMドライブにセットするだけで自動的に起動し、再生させることができます。

他のアプリケーションと同時に使えますので、お気に入りの音楽を聴きながらワープロで文章を書くといったこともできます。また、アルバムタイトルやアーティスト名などを登録したり、好きな曲だけを選んで再生させるといったことも可能です。

●メディアプレーヤー

WAVフォーマットのサウンド、Video for Windowsで作られたAVIフォーマットのビデオなどを再生するプレーヤーです。この他にも、デバイス(周辺機器やドライバ)を追加することによりMIDIファイルで音楽を演奏したり、MPEG形式のビデオを再生させることもできます。

インストールされているWindows®95には、いくつかのサンプルが用意されており、すぐに楽しむことができます。



●サウンドレコーダー

マイクやLINE IN端子から入力された音声を録画し、再生することができます。録音したサウンドは、WAVE形式のサウンドファイルとして保存できます。再生速度を変えたりエコーをかけることもでき、オリジナルのサウンドを簡単に作り出せます。また、本製品にはマイクが内蔵されているので、ボイスメモとして活用することも可能です。



◆Note Video for Windows

マイクロソフト社が開発したデジタル映像再生ソフトウェアです。ビデオカメラで撮影した映像などをビデオキャプチャーボードを介してコンピュータに取り込み、編集してファイル(拡張子はAVI)に保存できます。Windows®95には再生機能のみ搭載されています。

◆Note MIDI(ミディ)

電子楽器や外部からコントロールするための標準インターフェイスです。コンピュータに専用のMIDI装置(様々な楽器の音色が設定されている)を使用し、MIDIファイル(拡張子はMID、RMI)をメディアプレーヤーで読み込むことにより、音楽を基調として演奏させることができます。

● ボリュームコントロール

マイクやLINE 端子から入力された音や、WAVファイル、MIDIファイルなどの音、音楽用CDから出力される音の音量やバランスを、音源ごとに調節することができます。



MEMO



第4章

システムを拡張する

PCカードの使いかたや、メモリやハードディスクを交換する方法、および、外部周辺機器の接続方法について説明しています。

- | | |
|---------------------|----|
| 1. PCカードを使う | 70 |
| 2. メモリを増設する | 74 |
| 3. ハードディスクドライブを交換する | 76 |
| 4. ドライブを交換する | 78 |
| 5. 外部キーボードやマウスを接続する | 79 |
| 6. 外部モニタを接続する | 80 |
| 7. VGAポートを使用する | 82 |

PCカードを使う

本機には、PCMCIA Ver2.0以降に準拠のPCMCIAカード(以下、PCカード)を装着するためのPCカードスロットを搭載しています。ここでは、PCカードの装着方法とモデムカードとLANカードを使うときの注意事項などについて説明します。

● PCMCIA規格について・・・

PCMCIAとは、Personal Computer Memory Card International Architectureの略で、ノートタイプのコンピュータなどに装着するICカードを、メーカーが異なっても共通で使用できるように定められた統一規格で、一般に「PCカード」と呼ばれています。

ノート型パソコンに同じ規格のコネクタとスロットを設けて、様々な種類のカードを装着することでパソコンの機能を拡張できます。

カードには、メモリ、ハードディスク、モデム、SCSIインターフェイス、LANなど様々な種類があり、カードのサイズによっては2枚を同時に使うことも可能です。

また、PCカードを使うには、コンピュータにPCカードを認識させるためのデバイスドライバを組み込む必要があります。

本製品の場合、デバイスドライバは、すでに組み込まれていますので、PCカードをそのまま装着するだけで使うことができます。

● カードサイズについて

PCカードには、TYPE I(厚さ3.3mm)、TYPE II(厚さ3.0mm)、TYPE III(厚さ10.5mm)の3種類のタイプがあります。

本製品では、PCカードスロットが2スロット分あり、TYPE IまたはTYPE IIならば2枚まで同時に装着できます。また、TYPE IIIのカードでは一枚装着できます。

● カードの抜き差し

PCカードは、コンピュータの動作中でも抜き差しすることができます。

PCカードが装着されると、どんな種類のカードであるのかを自動的に認識し、すぐには使えるようになります。

PCカードを利用するアプリケーションを実行する前にPCカードを装着しておいてください。

カードを装着する

- 1 カードスロットは上下2つあります。どちらかの空いているスロットに、PCカードのコンピュータ側に装着するコネクタが付いているほうを奥にして、はっくりと押し込みます。



- 2 正しく装着されると、カードエッジとタブボタンが飛び出します。飛び出したエッジタブボタンは横に倒してロックします。



注意

異なる規格のカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与えるおそれがあります。必ずソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードをご使用ください。また、お買い求めの際は本製品に対応しているかどうかをご確認ください。



ビープ音が鳴らないときは

本体のボリュームアップがはじまっています。

- 3** 正しくカード用ドライバが組み込まれている場合は、カードを差し込んだときにビープ音が「ピッ」と鳴ってシステムがカードを認識します。
認識できないときはビープ音が「ブ」と鳴ります。
カードの接続やドライバの種類を確認してください。

カードを取り外す

- 1** 取り外したいカードが設置されている側の、収納しているカードイジェクトボタンを押し出します。



- 2** カードイジェクトボタンを押すと、カードが少し飛び出しますので、ゆっくりと引き抜きます。
システムの動作中に、カードが取り外されたときは、ビープ音が「ピッ」と鳴ります。



- △注意** PCカードを取り外す前に、HDD/FDDアクセスランプが消えていることを確認してください。

● モデムを使う

モデムカードを使用して電話回線をつなぐと、Windows95の通信ツールを使ってデータの送受信を行なうことができます。また、FAX機能を搭載しているモデムカードとFAXアプリケーションがあれば、FAXの送受信も可能になります。

モデムカードは最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのモデムカードの設定値が決まります。

ハイパーターミナルを使うときの注意

ハイパーターミナルを使って通信を行う場合には、次の点に注意してください。

- ハイパーターミナルのCOMポートは自動的に設定されるが、モデムのインストール時に設定されます。設定を変更したい場合は、コントロールパネルのモデムで設定してください。

● LANカードを使う

LANカードを装着し、ネットワーク環境で使うことを可能にするソフトウェアをインストールすると、本装置をLANにつなぐことができます。

LANカードは、最大2枚まで装着することができ、装着された順番でそのLANカードの設定値が決まります。

お使いになるLANカードによっては、独自にメモリ設定、経路方式が決められています。この場合、カード製造用ドライバをインストールして設定を行う作業が必要になります。

LANカードに付属されているマニュアルをお読みの上、これらのインストールと設定を行なってください。

ネットワーク環境でお使いの場合、システムコfigurationの「Power」の項目はすべて「Always on」に設定しておくことをお勧めします。

Word I/Oアドレス

CPUがデータをやり取りするために使用するチャンネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の通信機器を使っている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows95ではプラグアンドプレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

Word IRQ(割り込みチャンネル)

通信機器のCPUに対して割り込みを要求するためのチャンネルで、いくつかの番地が割り当てられています。複数の機器に接続されている場合は、設定値が重ならないようにする必要がありますが、Windows95ではプラグアンドプレイ機能により自動的に最適な値に設定されます。

2

メモリを増設する

本製品には、16MBのシステムメモリが搭載されています。専用拡張RAMモジュールを増設することにより、最大48MBまでメモリを増やすことができます。

△注意 専用拡張RAMモジュールは、必ず弊社純正品を使用してください。
他社製のRAMモジュールを使用した場合、本製品の動作の保証はできません。

● 拡張RAMモジュールの装着

48MBまでメモリを増設する場合

16MBの拡張RAMモジュールを2枚挿入します。

△注意 装着の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドが有効になっている状態で装着することはできません。この場合、システムコンフィギュレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(→別冊 BIOSの設定)

- 1** 本体後面の拡張RAMエリアのカバーを開きます。



- 2** 拡張RAMモジュールをしっかりと装着します。向きを間違えないようにしてください。



- 3** 拡張RAMエリアのカバーを閉めます。

- 4** 電源をONにすると、RAM容量が変更前と異なるためにエラーメッセージが表示されます。

- 5** **[F1]**キーを押して、システムコンフィギュレーションメニューを表示させます。

- 6** システムが搭載された拡張RAMモジュールの容量を認識込み、自動的に設定が行われます。

- 7** システムコンフィギュレーションメニューを終了させます。
[Exit] - [Save Changes & Exit] を選択します。

システムコンフィギュレーションメニューの詳細な操作方法については、(→別冊 BIOSの設定)をお読みください。

3

ハードディスクドライブを交換する

本製品には、ソフトウェアインストール済みの内蔵ハードディスクドライブが装備されていますが、このハードディスクドライブを取り外してソーテック純正の別のハードディスクに交換することができます。

使用したいアプリケーションやデータが増えて現在の容量では足りなくなったり、アプリケーション別にハードディスクを用意して、そのアプリケーションを使うときだけ取り替えるといった使い方ができます。

△注意 ハードディスクドライブを落としたり乱暴に扱うなどして衝撃を与えないでください。また、磁場が強いところや磁気を発生するもの(テレビやスピーカ)の近くに置かないでください。

ハードディスクを取り外すには

△注意 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリーを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り外すことはできません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(→ 別冊 BIOSの設定)

1 本体後面のハードディスクドライブのロックを、硬貨などを使って図のように引き上げます。



2 矢印の部分を指の腹で押さえるようにして、ハードディスクドライブをスライドさせます。



△注意 ロックをつかんで取り外しを行うと、ロックを破損する恐れがあります。

- 3 図のように少し傾けてから奥側に引き出します。



● ハードディスクを取り付けるには

- ⚠注意** 交換の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてACアダプタとバッテリーを取り外してください。また、サスペンドの状態で取り付けることはできません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(→別冊 BIOSの設定)

- 1 スロットにハードディスクドライブを挿入します。



- ⚠注意** ハードディスクドライブの上下に注意して挿入してください。ラベル貼付面が下になります。

- 2 ハードディスクドライブのロックをしっかりと押し込みます。

- 3 電源をONにすると、確信が得られるまでにパソコンの再起動を促めるメッセージが表示されます。

- 4 **[F2]**を押します。システムが装備されたハードディスクの情報を読み込み、自動的に設定が行われます。

システムコンフィグレーションメニューの詳細な操作方法については、別冊 BIOSの設定をお読みください。

Note 出荷時に装着されているドライブの内容

本製品に搭載されているハードディスクドライブは、フォーマット(初期化)が済んだ状態になっています。ハードディスクドライブには、サードパーティと作成され、各種のアプリケーションやプログラムがすでにインストールされています。

Notice 新しいハードディスクを使うときは

新しいハードディスクドライブには、Windows®95がインストールされています。使い始めるには、Windows®95のインストールを行ってください。インストールの方法については、添付のWindows®95のマニュアルをご覧ください。

4

ドライブを交換する

本製品には、フロッピーディスクドライブが付属しています。ここでは、CD-ROMドライブと交換する方法を説明しています。

△注意 接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態では換装できません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(→ 前巻 BIOSの設定)

● フロッピーディスクドライブと交換する

- 1 本体裏面のドライブリリースカバーを開きます。



- 2 ドライブリリースレバーを引くと、CD-ROMドライブが少し飛び出します。



- 3 CD-ROMドライブを引き出し、付属のフロッピーディスクドライブをしっかりと挿入し、ドライブリリースカバーを閉じます。



● CD-ROMドライブと交換する

フロッピーディスクドライブの場合と同様の手順で交換します。

5

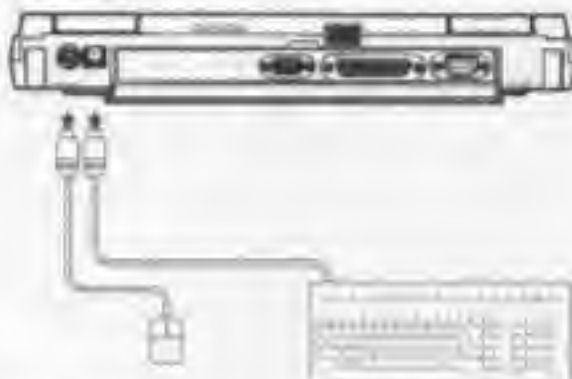
外部キーボードやマウスを接続する

本製品には、外部キーボードやテンキーパッドまたはマウスを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタには、PS/2用のキーボードおよびマウスを接続することができます。



注意

接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態で操作できません。この場合、システムコンフィギュレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(※別冊BIOSの設定)



本体背面の左側にある外部キーボードコネクタに、外部キーボード、テンキーパッド、マウスのケーブルを接続します。

接続されたキーボード・テンキーパッドとマウスは、コンピュータの電源をONにしたときに自動的に認識されます。



Note 外部テンキーパッドを使う

外部テンキーパッドは接続すると自動的に認識されます。内部キーボードで通常の入力を行ないながら同時に使用する場合は、内部キーボードのNUMロックをOFF、外部テンキーパッドのNUMロックをONにしてください。
なお、外部テンキーパッドでNUMロックをONにしても

本体のNUMロックLEDは点灯しません。使用できる範囲については弊社テクニカルサポートセンターお問い合わせください。

6

外部モニタを接続する

本製品には、外部モニタを接続するためのコネクタが装備されています。このコネクタに、VGA対応のディスプレイやマルチ周波数ディスプレイを接続すると、最大1024×768ドットの解像度で表示できるようになります。



注意

接続の前には、必ず本製品の電源をOFFにしてください。また、サスペンドの状態では接続できません。この場合、システムコンフィグレーションメニューで電源スイッチの機能をON/OFF(サスペンド機能を無効)に設定してください。(→別冊BIOSの設定)



コンピュータの背面にある外部CRTコネクタに、外部モニタのケーブルを挿入します。システムコンフィグレーションメニューのBoot Displayの設定が「CRT」または「Simultaneous」の場合は、コンピュータの電源を入れることにより、自動的に接続されたディスプレイに表示することが可能です。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューで「CRT」または「Simultaneous」の設定にしてください。

システムコンフィグレーションメニューの詳しい操作方法については、別冊のBIOSの設定をお読みください。



注意

外部モニタを接続した場合、Windows®95のコントロールパネル[画面]の中で「ディスプレイの種類」を設定する必要があります。設定方法は次ページをお読みください。



一時的に表示ディスプレイを切り替える

電源ボタンを押すことにより、LCDの画面→CRT画面→LCD画面の順に切り替わります。

● ディスプレイの種類を設定するには

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、メニューの【設定】 - 【コントロールパネル】を選びます。
- 2 コントロールパネルの中の【画面】アイコンをダブルクリックし、【ディスプレイの詳細】を選びます。
- 3 【ディスプレイの変更】をクリックします。



- 4 「カラーバリエーション」で色数を、「デスクトップ領域」で解像度を設定し、[OK]をクリックします。
- 5 Windows®8を再起動する必要があります。[システム設定の変更]ダイアログボックスで「はい」をクリックします。

7

IrDAポートを使用する

本製品には、赤外線にてデータを送受信するための定められた規格である「IrDA」に準拠したIrDAポートが装備されています。IrDAポートを装備した他の機器とケーブルを接続せずにデータの送受信ができます。



コンピュータの背面にあるIrDAポートと他の機器のIrDAポートがむかいあうように配置します。

△注意

IrDAポートを使ってデータを送受信するときは、ポート間の距離が1m以内になるように配置してください。また、通信中にポート開をささざると、通信不能になります。

IrDAおよびシリアルポート、プリンタポートを使用して、他のパソコンとデータ転送をする場合は、添付ソフト「TransX12™」のReadmeをお読みください。
なお、NEC製PC-9800シリーズとは、シリアルポートまたはプリンタポートからケーブルを使ったデータ転送はできません。IrDAポートを持っているパソコンのみと転送ができます。



第5章

トラブルが起きたら・・・

トラブルが起きたときの対応と対処方法について説明しています。
まず、トラブルの種類と原因と対処方法を紹介します。

1 トラブルの原因と対処方法 84

1

トラブルの原因と対処方法

本製品のご使用中に何らかのトラブルが生じた場合、まず、どのような状態であるのかを確認し、対処方法にしたがって処置を行なってください。

もし、対処方法通りにしても解決できないときや、ここで説明されている以外のトラブルが発生した場合は、『ソーテック テクニカルサポートセンタ』までご連絡ください。(→ 12ページ)

△注意 キーボード、およびマウスからの入力を一切受けつけない状態（ハングアップ状態といえます）になったときには、**Ctrl + Alt + Delete** キーでソフトウェアリセットを行ってみてください。もし、電源を立ち上げ直しても復旧できないときは、テクニカルサポートセンタまでご連絡ください。

●電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対処方法
ACアダプタが正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく接続してください。
バッテリーが充電されていない。	ACアダプタを接続して、バッテリーを充電してからご使用ください。
ACアダプタが故障している。	他の電源製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正時に動けばACアダプタが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの取扱店にご相談ください。
本体が故障している。	お買い求めの取扱店にご相談ください。

●画面に何も表示されない、または見にくい

考えられる原因	対処方法
電源が入っていない。	「●電源スイッチを入れても動かない」参照
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを易やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度などの影響によって表示が変わる特性があります。ムラがあるのは故障ではありません。
表示モード設定がOFFで、外部ディスプレイの電源がOFFになっている。	コンピュータの電源をONし直してから再度、外部ディスプレイの電源スイッチをONしてください。

●ハードディスクから立ち上がらない

考えられる原因	対処方法
フロッピードライブがブートデバイスに設定されていて、かつフロッピーディスクがドライブにセットされている。	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。
ハードディスクがしっかりと接続されている。	ハードディスクをもう一度しっかりかきかき込んでください。

●Windows®95が起動しない

考えられる原因	対処方法
メモリテストが正常に行なわれるのに起動しないときは、システムコンフィグレーションの設定が間違っています。	システムコンフィグレーションの設定をデフォルトに戻してください。 (→89頁 BIOSの設定)
Windows®95のレジストリ(重要な設定が保存されているファイル)が壊れるなど、システムに何らかの障害が発生しています。また、最近、Windows®95が正常に終了できていません。	「Starting Windows 95」と表示されている時にF8キーを押してすぐに離すと起動メニューが表示されます。ここで、「Safe Mode」を選択し、通常の起動ではなく基本的な設定で起動させることができます。また、「Strip-pirated Configuration」(非コマンドのモードを強制する)を選択し、起動コマンドを1つずつ確認しながら起動できます。Windows®95起動時のトラブルの詳細についてはWindows®95のマニュアルのトラブルシューティングをお読みください。

●フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対処方法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直し、もう一度やり直してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容には使えません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク容量が満ちている。	他のフロッピーディスクをセットしても読み書きできないときはフロッピーディスクドライブが故障しています。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	ライトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。(→47ページ)
3モードドライバがインストールされていない状態で、1.2MBフォーマットのフロッピーディスクがセットされている。	3モードドライバを再インストールしてください。なお、出荷時は、すでにインストールされていますので、1.2MBフォーマットでもそのままだけにすることができます。
フロッピーディスクのメモリー残量が充分でない。	不要なファイルを削除するが、新しいフロッピーディスクを使用してください。

●スーパーVGAモードにならない

考えられる原因	対処方法
DOS環境で動作するアプリケーションを動かしている。	LCD、CRT(外部ディスプレイ)ともにDOSモードでは640×480ドット表示しかできません。

●いきなり画面が消えた

考えられる原因	対処方法
電源コンセント、またはACアダプタプラグが外れている。	コンセントまたはプラグを差し込んでください。
サスペンド・レジュームやパワーセーブを有効にしている場合、設定の期限が満ちたのでレジューム/パワーセーブ状態に入った。	電源キーを押すと同じ状態に戻ります。また、サスペンドしている場合には電源スイッチを押してください。サスペンド・レジュームやパワーセーブを使わないとせば、システムコンフィギュレーションの設定を変更してください。(→ 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100)

●印刷できない

考えられる原因	対処方法
プリンタの電源が入っていない。	プリンタの電源を入れてください。
プリンタケーブルが外れている。	プリンタケーブルを確実に接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を正しく入れてください。

●外部マウスが動作しない

考えられる原因	対処方法
接続ケーブルが外れている。または接続されていない。	接続ケーブルを正しく接続してください。もし電気がない場合には、再度電源を入れ直してください。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再接入してください。
適切なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。
DOSアプリケーションを起動している。	DOSアプリケーションでマウスを使用するには、マウスドライバ(MOUSE.COM)が必要です。お手持ちのマウスに添付しているものをご利用ください。

●押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対処方法
CAPSロック、NUMロック、「ひらがな/カタカナ」キーなどが間違えて押されている。	各キーを目的の文字がタイプされるように合わせてください。(→58ページ)

●音が鳴らない

考えられる原因	対処方法
本体のボリュームノブがしぼられている。	ボリュームノブで音量を調整してください。
Windows®5.0のミキサーでミュートがチェックされている。	ミュートのチェックをはずしてください。

●ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対処方法
バッテリー容量がなくなっている。	ACアダプタを接続するか、または一度電源を切って別の充電済みのバッテリーを装着してください。
ACアダプタが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。

●表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対処方法
日付や時刻設定をしていないが、電源が設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。(→28ページ)

●サスペンド・レジュームできない

考えられる原因	対処方法
システムコンフィグレーションメニューの設定が正しくない。	システムコンフィグレーションを呼び出し正しく設定を行ってください。(→ 88頁 BIOS の設定)
バッテリー容量がなくなった。	ACアダプタまたは充電済みバッテリーに交換し再度電源を入れ直してください。(→ 28ページ)

●CPUクロックスピードがLOWスピードになる

考えられる原因	対処方法
CPUがオーバーヒートしている。	LOWスピードのまま使用してください。一時的な温度まで下がると、自動的に正常のスピードに戻ります。
グローバルスタンバイモードに入っている。	グローバルスタンバイモードの状態に入ると、CPUのスピードが自動的に落ちます。グローバルスタンバイモードが使用する場合に過ぎない場合は、システムコンフィグレーションメニューの「Standby Timeout」の項目に対し、チェックを外してください。(→ 88頁 BIOS の設定)

△注意

ハードディスクを修理する場合は、ドライブのみの修理もしくは交換となります。ハードディスクに記憶されているアプリケーション、データなどの保証、修復はいたしませんので、重要なものについては必ずバックアップをとってください。ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す場合は、有償にて受け付けております。



Appendix

本ユーザースガイドの索引、本製品の仕様について記載しています。必要に応じてお読みください。

1	フロッピーディスクドライブからのブート	90
2	Windows®95での パワーマネージメント機能の使用	91
3	ネットワークについて	92
4	索引	94
5	製品の仕様	98

1

フロッピーディスクドライブからのブート

WinBook Slimの出荷設定の状態では、フロッピーディスクドライブにディスクレットをセットしていても、ハードディスクからブートするようになっています。フロッピーディスクドライブからブートできるように設定を変更したい場合には、システムコンフィグレーションメニューを呼び出し（本体を起動し、メモリーテストが終わったときに、**F2**を押すと呼び出されます）、**Main**の項目の「Boot Sequence」の設定を「A : then C :」に設定してください。

2

Windows®95でのパワーマネージメント機能の使用

Windows®95では、自動的にCPUのクロックスピードをコントロールして電力を節約するAPMという機能が働いており、これにより長時間のバッテリー使用ができるようになっています。

さらに、バッテリー使用時間を長くしたい場合には、「Power Savings」と「オートサスペンド」の機能を利用する必要があります（→別冊 BIOSの設定）。

しかし、Windows®95のCD-ROMオートスタートの機能が有効になっていると、上記のスタンバイ機能を利用できません。CD-ROMオートスタートの機能を禁止するには次の手順で設定を変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、【設定】→【コントロールパネル】を選びます。
- 2 コントロールパネルの中の【システム】アイコンをダブルクリックし、【デバイスマネージャ】を選びます。
- 3 コンピュータの項目の下の【CD-ROM】をダブルクリックします。
- 4 「MATSHITA UJDAO871D」をダブルクリックします。
- 5 「設定」をクリックします。
- 6 オプションの中の自動挿入の項目の左にあるチェックボックスをクリックしてチェックマークを消し、【OK】をクリックします。
- 7 デバイスマネージャが表示されるので、【OK】をクリックします。
- 8 「再起動しますか?」と表示されるので、【はい(Y)】をクリックします。

3

赤外線通信について

WinBook Slimは赤外線通信の手段として、次の2つの手段を用意しています。これから2つの手段の特徴を示します。

- Windows®95のケーブル接続
- TranXit2

Windows95®のケーブル接続

接続先のノートブックコンピュータをドライブとして割り当てて、任意のアプリケーションよりアクセスすることができます。

通信相手のノートブックコンピュータのWindows®95のバージョンが「4.00.950a」または「4.00.950b」である必要がある（確認方法は次ページ参照）。

TranXit 2

- Windows®95のバージョンに関係なく、互方向のファイル転送ができる。
- 接続先のノートブックコンピュータにインストールされているOS（オペレーティングシステム）がWindows3.1であってもTranXitがインストールされていれば赤外線通信ができる。
- TranXit 2（または、TranXit）は現在市販されているほとんどのノートブックコンピュータにプリインストールされている。

△注意

Windows®95のケーブル接続で赤外線通信を行うには、通信相手のノートブックコンピュータのWindows®95のバージョンが「4.00.950a」または「4.00.950b」である必要があります。バージョンの情報は、コントロールパネルより、「システム」をダブルクリックして、「情報」を選択すると表示されます。バージョンが「4.00.950」であった場合には、マイクロソフト社から「Windows95 Service Pack 1」を入手して、Windows®95のアップデートを行う必要があります。

「Windows95 Service Pack 1」の入手先

・インターネット ホームページ <http://www.microsoft.co.jp>

・パソコン通信

The Microsoft Network

Nifty-Serve

PG-VAN

ASCIinet

・FAX BOXサービス

プッシュ回線のFAXより03-5454-8100に電話をかけ、ガイダンスが流れたら*4#を、BOX番号の入力を促されたら083000#を押す。

また、「Windows95 Service Pack 1」が入手できない場合には、TranXit2をご利用ください。TranXit2（または、TranXit）は現在市販されているほとんどのノートブックコンピュータにプリインストールされています。



注意 Windows95のケーブル通信の設定方法については、次の手順でヘルプを調いて確認してください。

Windows®95のケーブル接続の設定方法

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「ヘルプ(H)」を選択します。
- 2 「欲しい情報の最初の何文字かを入力してください」と表示されるので、「ケーブル接続」と入力して「Enter」を押します。
- 3 ケーブル接続に関するヘルプの画面が表示されるので、みたい項目をクリックします。



注意 コントロールパネルの中にある「赤外線モニター」は、Windows®95のケーブル接続を使用するときには有効に、TranXit2を使用するときには無効にしておく必要があります。次に、この設定の変更方法を示します。

- 1 「コントロールパネル」の「赤外線モニター」アイコンをダブルクリックして、「赤外線モニター」を開きます。
- 2 「オプション」の欄を選択し、「次のポートで赤外線通信を使用可能にする(I)」の項目のチェックマークをクリックして、使用目的に合わせて設定を変更してください。
- 3 「OK」をクリックして、赤外線モニターを閉じます。

あ

アイコン	36
アプリケーションキー	51
アルファベット	57

い

イジェクトボタン	47・54
インサートキー	52

う

ウィンドフ	38
-------	----

え

英記号	57
英数キー	53
エスケープキー	52
エプスロンキー	53
エンターキー	52

お

オルトキー	53
大文字モード	57
音量の調節	54

か

カーソルキー	52
カードの抜き差し	71
カードサイズ	70
解像度	40~42
内部オーディオ機能	51
外部CRTポート	30・51
外部モニタ	50
外部キーボード	79
外部キーボード・マウスポート	20・21・79
外部テンキーパッド	79
外部マウス	79
外部入力端子	61
拡張RAMエリア	22
拡張RAMモジュール	74
仮想的表示モード	42

カタカナキー	53
カタカナ	57
カタカナ/ひらがなキー	53
かな転写	57
カナキー	53
かな入力	54
パワーマネージメント	18
リターン/リセット	41
漢字の入力	56

き

キーボード	18・19・50~57
キャップスロックキー	53・57

く

クリック	30・37
ドライトポイント	18・19・30・37
クロックスピード	88

こ

小文字モード	57
コントロールキー	53

さ

最大化	39
最小化	39
サウンド機能	60~62
サウンドレコーダー	66
サスペンド・レジューム	26・43・88
サポート	12

し

時刻	33
システム仕体	88
システムフアンクションキー	51
シフトキー	53
シリアルポート	20・21
充電	24
充電しと口	18・19・23・24・25

す

数字	54・57
スクロールロックキー	54
スタートボタン	38・38
スタートメニュー	38
スタンド	22
ステータスLED	18・19・25
スピーカ	20・21・80
スペースキー	53

せ

削除キー	50
全角	56

そ

ソフトウェア	17
--------	----

た

タスタバー	38・38
タブキー	53

て

デスクトップ環境	41
テクニカルサポートFAQシート記入用紙	12
デリートキー	52
電源	24・28
電源LED	18・19・23・25・28
電源スイッチ	18・19・28
テンキー	54
テンキーパッド	78

と

時計	33・38
ドライブリリースレバー	22
ドラッグ	30・37
ドロップ	37

な

内蔵スピーカ	20・21・80
内蔵マイク	18・19・80
ナンバーロック	54
ナンバーロックキー	54

に

日本語入力システム	65
入力方法	65
スキャモード	66・67

は

ハードディスクドライブ	18・78・77
ハードディスクを取り外す	78
ハードディスクを取り付ける	77
バックスペースキー	52
バッテリー	25
バッテリーパック	26・27
バッテリーパック固定用ブラケット	22・26
バインドロックキー	54
バッドマスマーブルメント	91
手筒	56
手筒/手筒キー	59・56
ハンズフリー	84

ひ

日付	33・33
ひらがな	55~57
ひらがなキー	53

ふ

ファンクションキー	52
フォーマット	46・47
フォントサイズ	40~42
プリンタポート	20・21
ブライトスクリーンキー	52
フロッピーディスク	46・47
フロッピーディスクドライブ	46・47

へ

ヘッドホン	18・19
変換キー	52・53

ほ

ポーズ・ブレークキー	52
ポインタ	30
ボリュームノブ	18・19

ま

マイク	50
マイク入力	18・19・51
マウス	30・79

み

ミキシング	50
-------	----

も

音量調節キー	50・51
--------	-------

め

メディアプレーヤー	66
-----------	----

も

文字入力キー	50・56
モデムカード	73

も

ライトプロダクトノッチ	47
ライセンスカ	18・19

も

リセット	29
リセットボタン	18・29

れ

レジューム	43
-------	----

ろ

ローマ字入力	56
ログ記録	50

A

ACアダプタ	18・24
ACコード	18・24
Altキー	53

B

Back Spaceキー	52
--------------	----

C

CAPSロック	29
CD-ROMドライブ	20・21・63・64
CDプレーヤー	65
CDMポート	73
CDMポート番号	73
カメラ	53
カメラ	53

D

DC入力コネクタ	20・21
Devices	52

E

Enterキー	52
ESCキー	52

F

FAX	73
FDDアクセス	23
Fキー	53

H

HDDアクセス	23
---------	----

I

I/Oアドレス	73
Insertキー	52
ICカード	20・21・82
Id	73

L

LAN	73
LCD/CHARGE	47・50
LCN	18・19
LINE IN	18・19・51

M

MIC IN	18・19・24
MS-IME95	55・56
MS-DOS	52

N

NumLockキー	54
NUMロック	23・54

P

PADロック	23
PadLockキー	54
Pause/Breakキー	52
PCMCIA規格	70
PCカード	70～72
PCカードの抜き差し	71
PCカードスロット	18・19
PS/2キーボード	52
PS/2マウス	72
PS/2外部キーボード	79

R

RAMセジュール	74
----------	----

S

Shiftキー	53
SPEAKER	22・23

T

Tabキー	53
TrenXis	17・92

W

Windows®95	17・31～33・36・51
Windowsキー	51

数字

1.2MB	46・47
1.44MB	46
3.5インチフロッピーディスク	46
3モードドライバ	47
720KB	46

5

製品の仕様

● 本体システム仕様

モデル		WinBook Slim 1GB	WinBook Slim 150MX
CPU		Pentium 1.33MHz	MMXPentium 150MHz
システムRAM	標準	16MB	
	最大	48MB	
BIOSROM		256KB フラッシュROM	
ビデオメモリ		8M bits	
ハードディスク		1.08GB	1.44GB
フロッピーディスク		3.5インチ5モード 1.44MB/1.2MB/720KB	
CD-ROMドライブ		12cm/8cm 単回10倍速	
ディスプレイ	LCD	500×500ドット	
		DPI(ドット/インチ)84(85.5DPI)色 0.29ピッチ RGB-色 12.1インチ液晶搭載/バックライト	
		最大1024×768ドット カラー256色(256インターレース) LCDと液晶基板にて同時表示可能 ※DQ5モード640×480ドット	
インターフェース		シリアルポート(16550AタイプUART互換) *DAポート 外部CDTポート 外部キーボード/マウスポート プリンタポート PCMCIA V2.1 (カードは10ビットTYPE II *2 TYPE II *1) LINE 8ピン/15ピン/4ピン/15ピン/HEAD PHONE端子	
内部キーボード	仕様	3mmキーボードローウ エンブレソン製	
	キー数	87キー(108キー1.25ユーザレション)	
内部ボタン/テンキングデバイス		キーボード組み込み液晶ディスプレイ2ボタン式	
内部サウンド		16ビットステレオデジタルサウンドFM音源 Sound Blaster Pro15製	
内部スピーカー		ステレオ	
内部マイク		モノラルマイク内蔵	
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオ表示停止 サスペンドレジューム機能 *HDD停止 CD-ROM停止	ユーザ選択可能
カレンダー・時計・計測		バックアップ電池によるバックアップ	
電源	ACアダプタ	入力100V~240V 50 ~ 60Hz 出力18V 850mA	
	電池	ニッケル水素電池 3.6V 2300mAh	
寸法		299(W)×225(D)×39.4(H)mm (突起物のぞく)	
質量		約2.5kg (1/バッテリー/1/ラック装着時)	

MEMO

MEMO

WinBook Slim
ユーザーズガイド

1997年4月 第3版
株式会社ソーテック

SOTEC

